

土 木 研 究 所 資 料

都市域に望まれる河川像に関する研究(その2)

—かわと人々の活動のかかわり方—

昭和60年 3 月

建設省土木研究所
河川部都市河川研究室

Copyright © (1985) by P.W.R.I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P.W.R.I.

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、土木研究所長の承認を得ずしてこれを行ってはならない。

都市域に望まれる河川像に関する研究(その2)

——かわと人々の活動のかかわり方——

都市河川研究室 室長 松浦茂樹

研究員 島谷幸宏

要 旨

本報告書の目的は、①河川に係わる人々の活動事例を幅広く収集し、紹介すること、②それらの活動を分類・分析することによってそれぞれの活動が現在どのような状況におかれ、今後どのような活動に着目する必要があるのか考察すること、の2点である。

事例は、既往の文献・河川に関する雑誌・地方史・観光パンフレット・現地調査などにより収集した。

河川に係わる活動は、時代の変遷にともなって同種の活動であっても活動目的が変遷していること、および河川と人々の係わりがきわめて広範囲であり、深い所で結びついていることを示した。

キーワード：河川環境，親水，親水活動

ま え が き

1973年のいわゆる石油ショック以降、社会経済は安定成長時代に入り、人々の求める価値も心のうるおい、精神的な豊かさへと移向しつつある。1977年閣議決定された第三次全国総合開発計画でも、「それぞれの地域において、自然的、社会的、歴史的条件に沿って、居住環境を総合的、計画的に整備する必要性が強く謳われている。歴史的に形成された風土の理解が強く求められているのである。この基調は今後も続くであろう。

我国の風土形成を顧みるに、水の果たしてきた役割は大きい。水を治め、水を利用して国土は形成され、人々の日常の生活は水に支えられていた。日常的に水との深い係わりの下に我々の生活は成り立っていたのである。たとえば日本の都市の原型である城下町をみると、水をたたえた川堀、これに通ずる水路が幾重にも拡がり、景観上大きな要素となっていた。この水が生活用水、防火用水となったり、散策の場、遊びの場となって日常生活に大きな役割を果たしてきた。日本は世界にも稀な、水をふんだんに利用してその風土を造ってきた歴史をもっている。我々にとって水とは文化の源泉であり、ヨーロッパにおける森と比肩し得るものである。

我々が今後めざすのは、安全で快適な居住環境の創造である。その基本は我が国の風土を踏まえた地域造りであり、そのためには豊かな水空間の形成が重要な課題である。三全総でも「歴史的環境の主要な骨格としての自然景観、みち、水面についても、歩くという人間的尺度や水面にかかわりあってきた生活の系を考慮に入れ」と水の重要性を主張している。今後地域づくりに果たすべきこのような水の重要性を十分に認識し、地域において環境面で果たしている水の役割の、より一層の明確さを、都市河川研究室では重要な研究課題としている。

本報告書は、その一環として流域に生活する人々を個々人として捉える観点より歴史的に培ってきた人々のかわとの係わりを整理、分析したものである。人々の生活は、治水・利水面から、かわと強いつながりの下にあり、治水・利水の整備は我が国社会の発展の基盤であることはいうまでもない。だが人々は治水・利水以外でも、日常的にかわと密接なつながりをもっている。それは今日よくいわれる「親水」の言葉に代表されよう。

今日、さまざまな活動が河川と係わりあって行われている。それぞれの活動は我が国の風土の中から生まれてきたものであり、我が国の文化と密接な関連をもっている。このような深い背景をもっている我が国における「河川と係わりのある活動」を、体系的に整理し、考察したものは少ない。

このような状況に鑑み、本報告書は「河川と係わりのある活動」の整理、分析を試みたものである。しかし何分にも分析の対象は広く、深く、ある意味で我が国文化全体にも係わってくるものである。本結果が「群盲象を評す」の類にしかすぎないとの批判は十分承知している。しかし研究の重要な第一歩を踏み出したものと考えており、今後さらに内容の充実を図っていきたい。

昭和60年3月

目 次

ま え が き

1. 本報告書の目的と方法	1
2. 河川とかかわりのある活動の分類	2
2.1 場と対象	2
2.2 活動の目的別分類	3
2.2.1 信仰活動	3
2.2.2 生活 “	10
2.2.3 生業 “	10
2.2.4 社会 “	11
2.2.5 創作 “	12
2.2.6 教育 “	13
2.2.7 あそび・スポーツ	13
2.3 活動目的の変遷	15
3. 活動事例	16
お わ り に	49

1. 本報告書の目的と方法

河川と人々の係わりは古くかつ深いと、よく言われる。しかし、それは漠然とした知識であり、体系的に全体像を把握しようとする研究はほとんど行われていないのではなかろうか。この報告書では、このような筆者の前提から、広範囲に河川と人々のかかわりの活動事例を収集し、体系的に分類し事例を紹介することに主眼を置く。したがって、全体像を把握することに力を入れるため、一つ一つの事例についての突っ込みは、幾分浅いものになっているだろう。

本報告書の目的は、

- ① 河川と係わりのある活動事例を幅広く収集し紹介し、このことを通して人々と河川との係わりがいかに広範囲であり、深い所で結び付いているかを示すこと。
- ② それらの活動を分類・分析することによって、それぞれの活動が現在どのような状況にあり、今後どのような活動に着目する必要があるのかを考察すること。

の2点である。

研究方法は、①事例収集、②分類分析、による方法をとった。事例は、既往の文献・河川に関連する雑誌・地方史・観光パンフレット・現地調査およびブレインストーミングにより収集した。写真の多くは地方自治体より提供していただいた。

2. 河川とかかわりある活動の分類

2.1 場と対象

人々が河川と係わり合って活動する場合、大きく分けて「場」として係わり合う活動と「対象」として係わり合う活動がある。「場」として係わり合う活動とは、河川を一つの場所とみなし、河川の物理的な機能に応じた活動である。また河川を「対象」として係わり合う活動とは、たとえば河川を題材とした創作活動があげられ、河川の存在自体を対象とした諸活動といえる。このような河川を「場」としてみなす活動も、「対象」としてみなす活動も古くより行なわれている。

河川は、京都の鴨川にみられるように、江戸時代には出雲の阿国が歌舞伎おどりをはじめたり各種の催し物が行なわれた人々の集合する「場」として利用された。戦国時代には、「二条河原落書」に見られるように、一つの政治批判の場としても用いられた。逆に、時の権力者からは権力に反抗する者への見せしめの場として、河原を処刑場として利用した。このように河川は民衆からも支配者側からも人々が多く集まる場所として、ヨーロッパの広場のように利用されてきた。河川を一つの広場として利用する流れは、現在においても引き継がれ、自治体が実施する運動会やお祭りに見ることができる。

河川を「対象」とした活動は、信仰や万葉集や古事記にみられるように、太古より行われている。たとえば大井川自体を御神体とした大井川流域に散在する大井という名を冠した一連の神社群や『世の中はなにか常なる あすか川 昨日の淵ぞ 今日には瀬になる』という読み人しらずの万葉集の歌などがある。河川は信仰や芸術活動の「対象」となっていたのである。現在でも河川を題材とした小説や歌謡曲は数多く、河川を「対象」とした活動も綿々と続いている。

このように、「場」および「対象」として、河川は非常に古くから密接に人々とかかわっていた。しかしこの「場」としての河川および「対象」としての河川は、質の異なる河川との係わり方である。

河川を「場」として係わる活動は、先に述べたように河川の物理的な条件（都市域に望まれる河川像に関する研究（その1）の自然的親水機能と同義）が直接的に関係する。たとえば、催し物を開く場合には、広い河川敷や広い砂礫堆が必要であり、流しびなをする時には流水部に近よれる河岸や流れる水が必要である。それに対して河川を「対象」とする活動は、直接的には河川の物理的条件は効かず、河川の歴史性や重要性などの観念的な河川環境の比重が増す。したがって河川と「場」としてかかわるのか、「対象」としてかかわるのか、それともその両者を兼ねてかかわりあうのかで、河川の具備すべき条件はがらりと変る。

河川でなくてはできない活動・河川でなくてもできる活動というように河川での係わりに基づいて活動の仕分けをすることがある。この仕分けについて「場」「対象」として河川活動を分類した整理方法から検討すると次のようになる。「河川でなくてもできる活動」とは、河川を「場」とした活動のうち、河川の広さという機能のみを利用した活動といえる。広さのみを利用した活動も他の活動と同様に昔から河川と係わりのある重要な活動である。だが「河川でなくてはできない活動」が河川利用の際、優先されることは、

原則であろう。

河川でなくてはできない活動、河川でなくてもできる活動という考え方が必要となってきた背景には、河川を「水との係わりのない広場」として利用する（すなわち、堤内地で不足している公園やスポーツ施設の代替物としての利用）ケースが一時増えたためであろう。

2.2 目的別の河川に係わる活動の分類

河川に係わる活動をその目的によって以下の7つに分類する。分類された各活動は、時代の変遷にともなって活動の目的も変遷しているので、現在行われている事例がどの活動に属するか、判然としない場合もある。

- 信仰活動……川のきよめ感や無常感と結びついて様々な形の信仰がある。ここでは、川に関係のある、信仰にともなう活動を信仰活動と定義する
- 生活活動……個人または家族などのレベルで行うもの、日常生活における川とかかわりのある活動
- 生業活動……生活の糧をうるために川と関係した活動、個人あるいは個々の企業のレベルで行うもの
- 社会活動……川と関係した活動のうち、集団を単位とした活動で生活の糧をうるための活動ではないもの
- 創作活動……川と関係のある文学・美術・音楽などの創作活動
- 教育活動……川を題材としたり、媒介とした教育活動
- レクリエーション活動……川で行うあそび・スポーツ

2.2.1 信 仰

河川の清浄感（きよめるもの）や無常感（流れゆくもの）などと結びついて、河川は信仰の対象や場となっている。特に、水神信仰は民間信仰のなかでももっとも一般的なものであり、小さな祠や各神社の境内社として多数祀られている。

水神信仰を目的別に分けると次の4つ程度に整理できる。複数の目的を持った水神も多い。

- ① 利水の神として…………… 水源や用水の取水地点に水神を利水の神として祀る。たとえば、利根川上流域では、沢の水を飲料水とする習慣が昭和初年まで続き、家々には3尺幅ぐらいの水場があり、そこに「水神さん」が祀られていた。また岐阜市の三輪明神のように山県用水の神として祀られている例もある。
- ② 治水の神として…………… 治水の守護神として水神を祀ることも多い。たとえば輪中地域では堤防の上に多くの水神があった。現在では、堤防の小段に移されたり他の神社の境内社となり、堤防上の神社は少なくなった。これらの神社は、一度決壊した場所に設けられた場合が多く、神の力による再度災害の防止を祈願したり避難場所としての助命壇としての意味を持たせたようである。
- ③ 水難防止の神として…………… 子供の水難防止の神として水神を祀る。12月1日「川っペイリ」「オ

トゴノツイタチ」「川渡り」などとよばれるまつりがある。川に餅を流したり、餅を体にぬり川で転ばぬようにという呪いをして、子供の水難防止を祈願する。河童信仰とも結びついているようである。

- ④ 舟運の神として…………… 舟の水難防止の神として河岸や湊で祀られた。霞ヶ浦を中心として栃木・茨城・埼玉に広く分布している大杉神仰（アンバさま）は、利根川流域の船頭の信仰を集め近世の初めごろに広まったもので舟運の神様として有名である。

河川または水に関係のある信仰は、おおむね仏教系と神道系の2系列に分けることができるようである。ただし日本では古来より神仏習合がおこなわれたために両者が複雑にからみあい、本来は仏教であるが神社に祀られている場合も多くみられる。ここでは、それぞれの系列のうち、主たる信仰対象について簡単に説明する。

河川信仰の系列

神道系……水神の祭神としてもっとも多くまつられているのは、弥都波能売神（^{みつはのめのみ} 罔象女神）である。弥都波能売神は、伊邪那美尊の尿より化身した神として書かれている。その他では、^{くろおかのめ} 闇淤加美神（^{たかみかのみ} 高竈神）が雷神として山頂などにまつられていることが多い。闇淤加美神をまつった神社では、祈雨や止雨と祈願するまつりが行なわれることが多い。その他の神々については、表2.1に示す。

仏教系……仏教系の信仰としては、天王信仰、弁天信仰がある。

天王信仰…… 仏教に説く四天王の一人である^{こずてんのう} 牛頭天王に対する信仰のことで、日本神話のスサノオノミコトと習合し、京都八坂神社や愛知県津島神社にまつられる。これらをまつる神社はひろく祇園社と称した。この神は一般に旧6月を祭日とし水の神の性格を持っていた。各地の天王社は、前述の二社を中心としいずれかと関係があるといわれている。京都八坂神社の祭礼祇園祭では、主要行事に鴨川原で神輿洗い、すなわち禊、袂えが行なわれる。また津島神社の祭礼では、天王川で^{みよし} 神葎刈りという神事、やはり、禊、袂えがおこなわれる。このように天王信仰は、川における禊、袂えを祭礼の中心とした川と密接なつながりのある信仰といえる。

弁財天信仰…… インド神話の河川神の一つであり、河川（インダス川ともいわれる）を神格化した女神である。この神は人の汚れを祓い財宝利得をもたらす神といわれている。本来河川神であるので日本でも弁天の祠は多く水辺に祀られる。竹生島（滋賀県）、宮島（広島県）、江の島（神奈川県）が有名。

その他、金比羅宮、阿波神社なども水とかかわりの深い神社である。また、水神のおちぶれた姿とも言われている河童信仰も全国的に見られる。

以上のような信仰と結びついて様々な形のまつりが行なわれるが3章では、舟を使うまつり、雨乞い、流しびななどのまつりの事例についても、信仰の項で紹介する。

表 2.1 水に関係あると考えられる神話上の神々

神 名	系 譜	信仰の対象	祀る神社の例
はやあきつ ひこのかみ 速秋津日子神	いざなぎのかみ 伊邪那岐神と 伊邪那美神との子神	水戸(港)の神	安福河伯神社(宮城県) 隅田神社(東京都)
はやあきつ ひめのかみ 速秋津比売神	速秋津日子神の妻神	"	隅田神社(東京都)
あわな ぎのかみ 沫那芸神	速秋津日子・比売の子神	灌漑及び水に 縁のある神	
あわな りのかみ 沫那美神	"	"	
つらな ぎのかみ 煩那芸神	"	"	
つらな りのかみ 煩那美神	"	"	
あめの りくまりのかみ 天之水主神	"	"	りくまり 吉野水分神社(奈良県) 建水分神社(大阪府)
くにの りくまりのかみ 国之水分神	"	"	建水分神社(大阪府)
あめの くひぎもちのかみ 天之久比奢母智神	"	"	
くにの くひぎもちのかみ 国之久比奢母智神	"	"	
みづはの めのかみ 弥都波能売神 (罔象女神)	伊邪那岐神と 伊邪那美神との子神	水 神	丹生川上神社(奈良県)
くろはの めのかみ 闇淤加美神 (高 竊 神)	伊邪那岐神の子神	雨を司る神	丹生川上神社上社・下社 (奈良県)
くろみ つはのかみ 闇御津羽神	"	谷の水の神	賀久留神社(静岡県)
ひかわひ めのみこと 日河比売命	闇淤加美神の子神		
ふかぶちのみずや れはのかみ 深淵之水夜礼花神	日河比売命の子神		
あめの つどへちねのかみ 天之都度閑知泥神	深淵之水夜礼花神の妃神		
おみづねのかみ 淤美豆奴神	深淵之水夜礼花神と 矢之都度閑知泥神との子神	大水を司る神	
きの 木の かみ 木 俣 神 (御 井 神)	おおくにぬしのかみ 大国主神の子神	井 泉 の 神	かい 御井神社(奈良県) 御井神社(島根県)

資料：川口謙二「神々の系図」(東京美術選書)

18 海の神三神——A 大綿津見神、B 速秋津日子神、C 速秋津比売神（水戸の神二神）

家宅の守護神に次いで海の神三神が生ずる。はじめに生れるのはA大綿津見神で、綿津見は司るの古語で、即ち大海を司る神を意味する。

次が水戸の神で、御名をB速秋津日子神、その妹（妻神）C速秋津比売神。水戸は水の出入りする門口、即ち港を意味する。昔、海を渡る船の泊るところは多くは河口で、湾が利用されるのは少し後世であった。速秋津の意味は、水の流れて磯をうして磯をはらったもので、流れの速さも意味するが、河口は潮の干満の速さに左右されるところから出た神名と思われる。比古は彦で男性、比売は姫で女性、妹は妹で妻の意味である。

大綿津見神を祀る神社

宮城県本吉郡唐桑町

日高神社（郷社）

速秋津比売神を祀る神社

宮城県亶理郡亶理町

安福河伯神社（郷社）

速秋津日子神・速秋津比売神を祀る神社

東京都墨田区墨田

隅田神社（村社）

19 速秋津日子神・妹速秋津比売神より生れたる水に縁ある神八神

- A 沫那美神、B 沫那美神、C 沫那美神、D 沫那美神、E 天之水分神、F 国之神水分神、G 天之久比耜母智神、H 国之神久比耜母智神

速秋津日子・比売の二柱の神は、河と海との分界を行っていた。それというのが水戸（湊）は河口にあるところが多く、一方は河、一方は海とに分かれ、また入れこになつていたので示したものであろうが、本居宣長の『古事記伝』では「河海に因りて」とあつて、河を男神、海を女神としている。

この二神より生れた神として、まずA沫那美神、B沫那美神の二神を示すが、伊邪那岐・伊邪那美二神の如く、岐は男性、美は女性をあらわし、沫は水の泡を意味する神である。

次にC沫那美神、D沫那美神と男女二神が続く。沫はつづら（円・粒）の約語で、やはり水泡のことだが、前出の沫神の泡よりやや大きな泡という意味。

その次にE天之水分神、F国之神水分神が生れる。水分は水配りの意味で、『万葉集』巻七上に「神さぶる磐根こしき三芳野水分山を見れば悲しも」とあるように大休山の分水嶺をいい、ここを水分山ともいう。天之・国之神は神名を対にするために添えた接頭語とされているが、天々の水（雨）と地々の水（川）との関係からいわれた名とも考えられる。もちろんこの二神とも田の灌溉を司る神には違いない。

G天之久比耜母智神、H国之神久比耜母智神が最後に生れる。『古事記伝』では、久比耜母智は瓢箪（ヒサゴ）のことであると解釈している。即ち水を汲むのに用いる器で、掬子・柄杓はヒサゴの転じた語でもある。総じて以上八神は灌溉及び水に縁のある神である。

天之水分神を祀る神社

京都府宮津市大垣

龍神社（国中）

奈良県吉野郡吉野町吉野山

吉野水分神社（村社）（万葉集巻七所載）

天之水分神・国之神水分神を祀る神社

大阪府南河内郡千早赤阪村水分

地水分神社（府社）

32 弥都波能売神〔罔象女神〕

この神は30波瀾夜須昆古・31波瀾夜須昆売の男女二神と同じく、伊邪那美神が火の神迦具土神を生み、陰所を焼き病み苦しめ給うた折に、尿（小便）より化生した神として書かれ、『日本書紀』では水神罔象女神と書かれている。

この神名は水が走るという意味であるが、耕地の灌漑に使う引き水のことを表現したものだろうか。小便より生れた神ということから肥料を司る神と考へてもよからう。糞より化生した神は前記のとおり男女二神と表現しているが、この小便より化生の弥都波能売神は売（女）の字をつけているので女性神であり、女性の小便のすさまじさを神名としたことは間違いないからう。

この神を主祭神として祀る大社は無いが、摂末社または配祀神としている神社は多くある。これは灌漑用水即ち水神としての信仰があったためであろう。

弥都波能売神を祀る神社（高麗二神と共に）

奈良県吉野郡川上村

丹生川上神社（官大）

開御津羽神を祀る神社

静岡県浜松市神ヶ谷町

賀久留神社（県社）

高麗・開羅両神を祀る神社

京都市左京区鞍馬買船町

寶船神社（官大）

42 開淤加美神〔高麗神〕、43 開御津羽神

伊邪那岐神が火の神迦具土神の首を斬られた折に、その剣の柄に集まった血が、手の指の股から流れ出てきた二神の御名を開淤加美神と開御津羽神という。

開は谷あいの意味であるが、淤加美の語源は不明。だが古来より雨を司る龍神としての信仰があり、『日本書紀』の本文には無いが、一書には高麗神という神がある。伊邪那岐神（紀では伊邪諾神と書かれる）が迦具土神を三段に斬った際、雷神・山神とともに生れた神とされる神で、高は開（谷）に対して山峯を指し、麗は龍神で雨を司る神とされ、古来から開淤加美（麗）神とともに雨を司る神として信仰されている。二神は高麗・開羅の神として対の信仰があるが、高・開の両神は同神であるという説もある。また開御津羽神の御津羽は32弥都波能売神と同義語で水のことであるので、この神の性格は谷の水の神ということになる。

開淤加美神（高麗神）を祀る神社

奈良県吉野郡川上村

丹生川上神社上社（高麗神）（官大）

奈良県吉野郡上市町

丹生川上神社下社（開羅神）（官大）

その他、各地の意加美神社

76 A 布波能母遲久奴須奴神、B 日河比売命

A 布波能母遲久奴須奴神は、72 A 八島土奴美神・B 木花知流比売命の間に生れた神で、神名の母遅久奴須は持国主と思われる。

B 日河比売命は、湍迦美神（42 關湍迦美神——雨・水を司る龍神）の女で、日河は出雲の肥河（姫川）から出た名であろう。須佐之男神をはじめ、出雲の神々を合祀している埼玉県大宮市の氷川神社の氷川も、この肥河から出ているものといえよう。

布波能母遲久奴須奴神と日河比売命は結婚して、77 A 深淵之水夜礼花神を生んでいる。

77 A 深淵之水夜礼花神、B 天之都度聞知泥神

男神の水夜礼は水を遺る意味で、母神の76 B 日河比売、祖母神の42 湍迦美神三代とも水に関係ある名を冠している。妃神の神名のうち、都度聞は集えて、知泥は敬称語であるとなると、総じて水を集える神といえる。

この夫婦神から78 A 湍美豆奴神が生れる。

78 A 湍美豆奴神、B 布怒豆怒神、C 布帝耳神

湍美豆奴神の字義は大水主であろう。大水を司る神。この神と夫婦神となる妃神は布帝耳神で、その親は布怒豆怒神となっているが、この妃神親娘の神名の名義はわからない。

86 木俣神〔御井神〕

『古事記』によると、80 大国主命は最初の妻83 八上比売命との間に御子をもうけるが、嫡妻である85 須勢理比売命を畏れ、御子を三叉の枝に挟んでおいて、生れ故郷の因幡へ帰ってしまったとある。この御子を木俣神といい、またの名を御井神としている。

木俣神は木の神であり、御井神は井泉の神。古代の井は泉であり、泉は多く山の端の森林の中にあつたので、一神に木と井、二つの名が語られたのだろう。また、三叉の枝は神の寄り木とされ、山間各地での民俗信仰がある。

木俣神を祀る神社

京都府亀岡市大井町

大井神社（郷社）

御井神を祀る神社

奈良県宇陀郡榛原町

御井神社（郷社）

島根県隠川郡赤川町

御井神社（郷社）

2.2.2 生活活動

人々は、日常生活を送るうえで色々な形で川と係わりあっている。そのひとつは、生活用水の水源としての利用であり、個人的規模での農業用水としての利用である。このような水源としての利用は、水道の普及や大規模な用水路の整備によって、しだいに日常生活の中から姿を消しつつある。また、魚とり藻とりなどの食料品の調達などの活動も、日常生活としての活動から生業としての活動やレジャーへと変遷している。その他、川の清浄機能を利用した、洗たくや野菜洗いなども、今ではほとんどみられなくなった。

日常生活としての利用として現在注目されているのは、流雪溝としての利用であろう。色々な活動が、機械化や組織化によって個人の手から社会の手に移るなかで、除雪作業だけは中々個人の手から離れることが難しいようである。

以上のように、社会が組織化・機械化されることによって、川と人々の日常生活としてのふれあいは昔に較べて極端に減っており、このことが人々と川との係わりをしだいに疎遠にしている主要な原因であろう。

表 2.2 日常生活としての川とのかかわりの変遷

川の利用法	生活活動	変遷の要因	現在の状況
水 源	水 汲 み	水 道 の 普 及	ほとんどみられない。
	農 業 用 水	組織化・大規模化	個人の手からしだいに離れる。
洗 う	野菜・洗たくなど	水 道 の 普 及	都市部ではほとんどみられない→観光化したものもある。
流 す	流 雪 溝	—	重 要
防 る	水 防 活 動	組 織 化	組織化され水防訓練を行っているが都市部ではしだいに衰退の傾向にある。
食料生産の場	魚 と り ・ 藻	生 業 化	商業化またはレジャー化へ。

組織化・機械化 → 衰退・レジャー化の傾向

2.2.3 生業活動

川の色々な機能と結びついて、川と係わりのある生業（生活の糧とする職業）が営まれている。農業・林業・漁業・工業・鉱業・運輸業・観光業などである。これらの生業は、水利用を目的とした工業のほかは、観光業への転化をのぞいてしだいに衰退の傾向にある。

川に係わりのある生業も、日本の経済機構の変遷にともなってその中心的存在は変化してきた。古代には、漁業を中心とした第一次産業、中世に入って舟運が盛んになり、明治以降の工業の進歩に伴って第2次産業と関連した業種が中心となってきた。近年産業の中心が第3次産業にうつるにしたがって河川と生業とのかかわり方も、しだいに生産に直接関係のない観光業などの比重が増大しつつある。

表 2.3 生業活動としての川とのかかわり方

	河川との係わりかた	利 用 方 法	現 状
農 業	高水敷や堤防などの土地利用	・農耕地（田，畑，果樹園，桑畑など） ・放牧地	河川管理の強化，産業機構の変化によりしだいに衰退
	河川による洗浄	・野菜の洗浄 ・農機具の洗浄	しだいに衰退
漁 業	魚の捕獲の場	・魚，かに，えびなどの捕獲	観光化，レジャー化の傾向
	魚の養育の場	・魚の養殖	“
林 業	流す	・いかだ流し	観光化
	貯める	・貯木場	
工 業	水利用	・各種工業	
	洗浄	・染色（友禅流し） ・紙すき	衰退
	生産地として	・砂利採取 ・石の採取	河床高維持のためしだいに制限
鉱 業	生産地として	・砂金・砂鉄の採取	衰退
運輸業	停泊地として	・河口港 ・河岸 ・空港	河岸は舟運の衰退にともなって減少したが，河口港は依然として存続
	交通路として	・舟運 ・渡し舟	一時衰退したが，荒川などで見なおしの気運もある。観光化 生活の足としては衰退傾向
観光業	景勝地として	・峡谷 ・水郷 ・歴史的まちなみ（倉敷・佐原）	歴史的まちなみと結びつけた河川の整備は増加傾向（栃木市，佐原市）
	温泉地として	・川温泉	各地
	生活活動からの転化	・川洗濯	奥津温泉でみられる
	漁業からの転化	・釣り場 ・観光やな ・う飼	増加の傾向
	林業からの転化	・いかだ流し	新宮川
	運輸業からの転化	・屋形船 ・遊覧船 ・渡し	増加の傾向

2.2.4 社会活動

川と人々の係わりは，社会の組織かとのとてくると，個人として川と係わるばかりでなく，集団あるいは社会として川と係わるが増えてくる。ここでは，川との係わり方が集団の利益になる活動を社会活動と定義する。

川と係わりのある社会活動事例を以下に示す。

利水活動……………農業用水の整備，水道・工業用水の整備，ダムの構築など

治水活動……………河川改修，水防活動など

軍事活動……………堀の開削，水攻めなど

住民活動……………河川清掃，カムバックサーモン運動など

地域行事……………花火大会など

これらの活動のうち，軍事活動としての河川の果たす役割は衰退した。治水・利水活動は社会に果たす役割の大きさから，現在または将来においても重要な活動といえる。住民活動や地域行事は，地方の時代を反映して，河川を場または対象として数多くのものが展開され，これからも盛んになると思われる。

利水活動は，初期には個人のレベルで行なわれる生活活動であったと考えることができるが，社会が組織化される過程で，個人の手からしだいに離れ社会として建設や管理を行なうようになってきた活動である。利水・治水活動については多数の文献で紹介されているので本研究では事例の紹介は行わない。

2.2.5 創作活動

川を対象としたり，川を場として色々な創作活動が行われる。川を対象とする場合には，川の持つ「浄める」機能や川の流れる機能とむすびついて，清らかな存在や流れゆく存在（無常感の対象）としてとりあつかわれている。また，川のへだてる機能と結びついて，心理的または社会的な境界としてとりあつかわれる場合も多い。この他にも川の色々な特徴と結びついてさまざまな創作活動が実施されている。

対象として

- 文学 小説 野菊の墓（伊藤左千夫） 隅田川（永井荷風） 紀ノ川（有吉佐和子），
千曲川スケッチ（藤村），泥の河・蜚河・（宮本輝）など
- 詩 詩集隅田川（石井健吉），句集せせらぎ（小川文生）など
- 和歌・俳句 北上川（石川啄木），最上川（松尾芭蕉，子規），信濃川（宮柊二），
大井川（藤原俊成）など
- 美術 絵画・版画 河（堀田善衛）など
- 音楽 クラシック ます，水上の音楽，美しく青きドナウなど
- 歌 春，ドジョッコフナッコ，神田川，長良川艶歌など
- 映画 ナイル殺人事件，橋のない川，遠すぎた橋，泥の河など
- 写真 多摩川写真集，日本の自然と美(4)，川を見る（井口昌平）など
- 昔話，民話 河童伝説など，一寸法師，ぶんぶく茶釜，桃太郎など

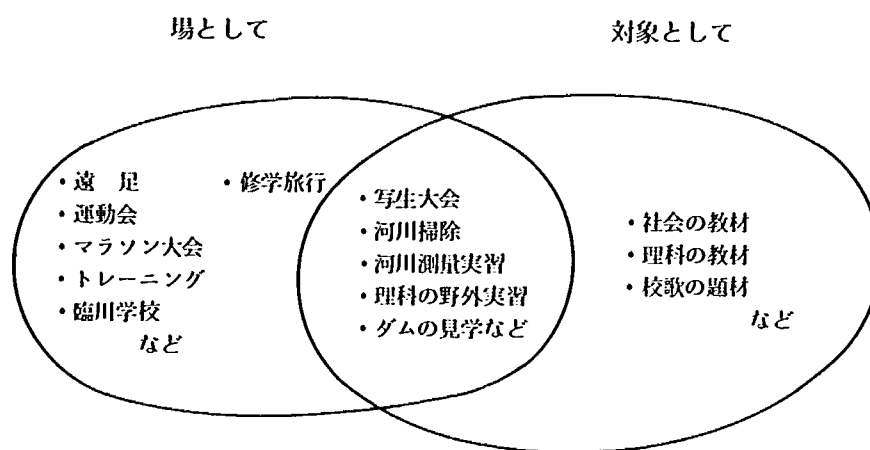
場として

- 楽器の演奏
- 歌舞伎 加茂川阿国歌舞伎など
- 舟舞台 柳川市など
- 曲水の宴 太宰府，磯庭園（鹿児島）など

2.2.6 教育活動

川が、地域社会に与える重要性や人々が洪水と戦ってきた歴史などが題材となり、社会科の授業の対象となる。川に棲む魚や昆虫、川の運搬作用や堆積作用は理科の教材となる。また、広い河原は、写生大会や運動会、遠足の場ともなる。

以上のように、社会と川のかかわり方を反映して、川は教育の場や対象となっている。大河川を上流から下流まで見て歩くと、必ずといっていい程、川で学ぶ子供たちをみかける。教育活動は、現在においても衰退することはなく、都市内の自然が減少している現在では身近な自然を知らしめるという意味で、河川の役割は増大するであろう。



2.2.7 あそび・スポーツ

川の持つ種々な機能を利用して、川辺では色々なあそびスポーツが展開される。特に、自然要素を多く保持している河川では、人々の様々な要求や年齢層に対応して数多くの活動が可能である。子供たちは、水に触れ、水に棲む魚や昆虫と遊ぶのが好きで、夏場の河原には多くの子供づれの人々が集まる。このように河川は身近な遊び場として魅力のある場を提供している。

表 2.4 あそび、スポーツと親水機能の関係

体 の ど こ を 使 う か	活 動 名	事 例	自 然 的 親 水 機 能													観 念 的 な 親 水 機 能 必 要 事 項
			(1)連 続 性	(2)縦 高 低 差	(3)横 高 低 差	(4)広 い 場 所	(5)し ゃ 断 性	(6)水 の 存 在	(7)河 床 材 料	(8)生 物 の 存 在	(9)水 の 動 き	(10)風	(11)音	(12)気 候 調 整	(13)水 面 の 反 射	
五 感	見 る	史河花も花水虫川水川水花 跡川みじ火音音水にの 見鑑狩大鑑鑑飲 学賞見り会賞賞む浴泉るり	△		△△△	○		△○△△△○		○○	△○			△	△△△△	歴 史 美 “ ”
	聞 く						○		○		○○					
	味 わ う						○		○							
	触 れ る						○									
	嗅 ぐ						○									
体	生物との 触れあい	フィッシュウォッチング 虫草と花とつ狩り ホウキとルか 釣魚とクサーモ 力ムバック						○	○○○○○○○○○○							
	食 べ る	や川バ魚川 虫ベキと ー料ユ なり一理床				○		○	△△	○						
	行 事	風運植芋川 上げ動木煮め切 大そンツ練 会会市会しりびみ 会会市会しりびみ 会会市会しりびみ				○○○○○		△△△	○○○	△△	○					
	そ の 他 遊 び	水砂夕キビデ楽渡花草た舟 あチャニーの スラコ ラジ	△		△	○		○	△	△	△△		○△	△△		
	ス ポ ー ツ	カレ水水スヨジササゲゴモ 上スダッキリカボ キョット の	○		○			○○○○○○○			○					

○……必要
△……あった方がよい

2.3 活動目的の変遷

時代の変遷にともなって、各活動の目的、内容も変遷してきている。たとえば、魚を採ることについて考えてみると、最初個人の日常生活としての魚とりであったものが、集落が発生し社会が組織化されるにしたがって職業としての漁業が誕生する。すなわち生業としての漁業である。生活に余裕がでてくると、魚を採ることをレジャーとする傾向がでてくる。魚採りをレジャーとする事例は、江戸時代以前にもあったが、大衆のレベルにまで普及するのは、近年である。このように各活動ともその目的内容が変遷してきている。以下に前節まででのべた7つの活動について、それぞれの変遷の概略について述べる。

信仰活動は、次第に信仰的な色彩を弱めレジャー化、行事化することによって、継続あるいは、復活する傾向にある。

生活活動は、流雪溝としての利用を除くと衰退の傾向にある。これは組織化や機械化によるところが大きい。

生業活動は、漁業、運輸業、農業などは社会経済機構の変化にともなって衰退して来ているが、水利用としての工業は依然として盛んであり、観光業は、都市周辺の数少ない自然として盛んになりつつある。

社会活動のうち、軍事的な対象としての活動は衰退したが、利水活動、治水活動は綿々と続いている。住民活動、地域行事などの活動は、地方の時代、コミュニティ造りの時代を反映し、盛んになる傾向にある。

生業活動は、漁業、運輸業、農業などは社会経済機構にともなって衰退して来ているが、水利用としての工業は依然として盛んであり、観光業は、都市周辺の数少ない自然として盛んになりつつある。

創作活動は、万葉集の昔から現代にいたるまで綿々と続いており、現在でも宮本輝が「蜚川」で芥川賞を受賞したのは記憶に新しい。

教育活動では、小学校4年の社会科で治水についてかなり詳しく習うなど「場」および「対象」として重要性は変わっていない。

レクリエーション活動は、都市内に残された貴重な自然空間として河川が認識されるなかで、ますます盛んになってきている。

以上のように、活動によってその隆盛の様子は異なる。現在は、一時非常に盛んであった舟運・信仰活動・生活活動が衰え、社会活動やレクリエーション活動が盛んになりつつある時期と位置づけることができる。

川と人々は、非常に広く深くかかわっており、その時代その時代で社会の要求にしたがって目的や内容は変化するが、今後もその係わりは切れることなく綿々と続くであろう。

3. 活 動 事 例

3.1 信 仰 (1)～(11)

3.2 生 活 (1)～(2)

3.3 生 業 (1)～(6)

3.4 創 作 (1)

3.5 社 会 (1), (2)

3.6 教 育

3.7 レクリエーション

3.1 信 仰 (1)

水神社の事例

・貴船神社（京都市）

雨水を守護する神，高瀬神を祭神とする賀茂川の川上にあることから河上社とも呼ばれ，賀茂神社とともに成立した。

都が奈良にあったころには，吉野山中の丹生川上神社が雨乞いの神とされていたが，都が平安京に定められてからは，貴船神社が丹生川上神社とともに雨乞いの神となった。平安遷都後の弘仁9年（818年）に大社となった。

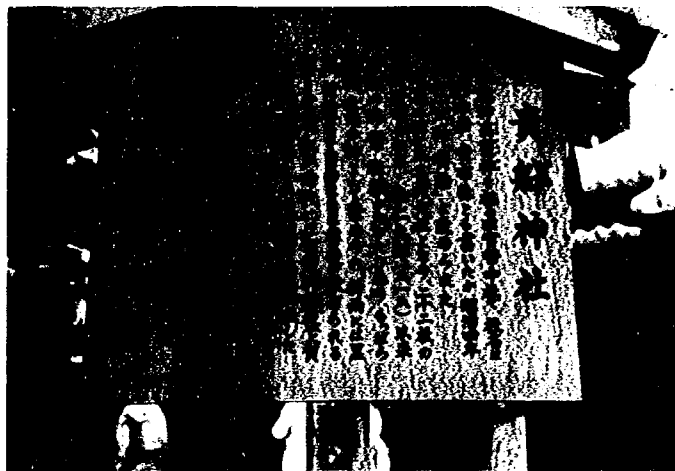
例祭は6月1日であるが，2月9日には祈雨祭が行なわれる。祈雨祭では，その年の雨量が適当であることを祈り次の歌が唱えられる。

おほみたの うるほうばかり せきかけて みぜきに落せ 川上の神

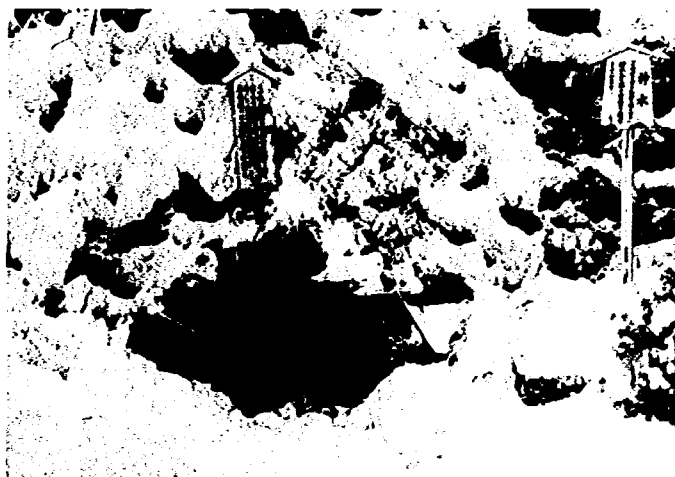
雨を祈るときは黒馬，止雨のときは白馬を献上するのが例で，のちに止雨のときは赤馬を加えたという。



② 参道からみた神社



① 貴船神社の由来



③ 神社内の神水

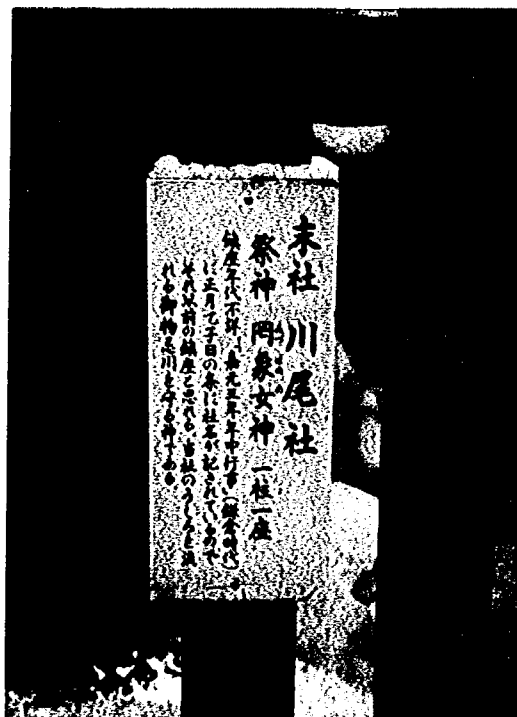
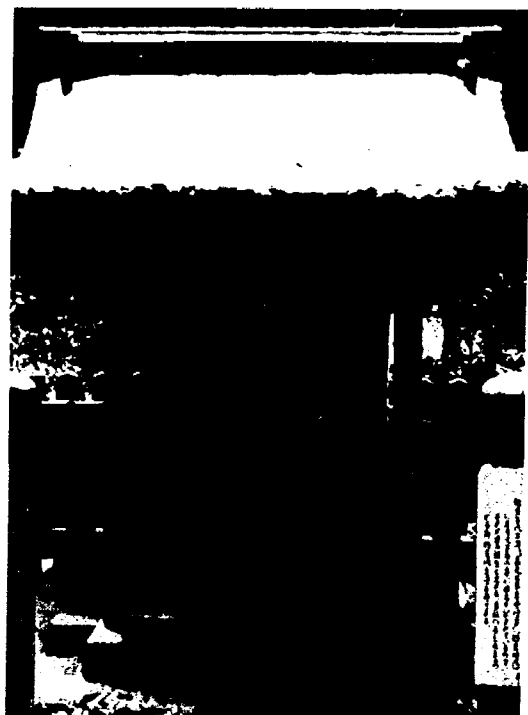
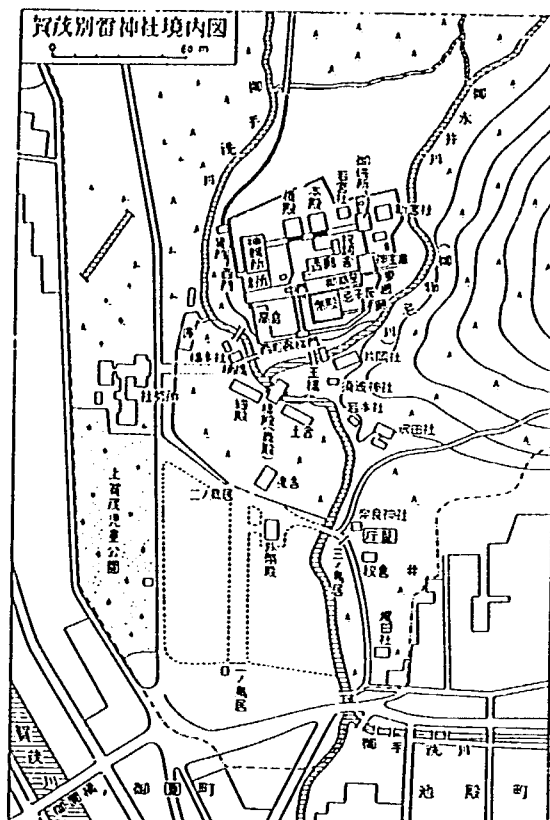
信仰 (2)

。賀茂別雷神社（京都市）

京都には賀茂神社が二社あり、一社がこの賀茂別雷神社（上賀茂社）である。上賀茂社の祭神は、玉依姫と丹塗矢より生れた賀茂別雷神であり、賀茂川上流の雷神信仰に由来する。この神社は、御水井川と御手洗川の合流点で、川との係わりあい深いことを示している。また、末社の川尾社は、水神信仰の中心的存在となっているミヅハノメノカミを祭神としている。



④ 加茂別雷神社（上賀茂社）一社殿



⑤ 川尾社 末社に水の神である罔象女神をまつる。 ⑥

信 仰 (3)

その他の水神社等

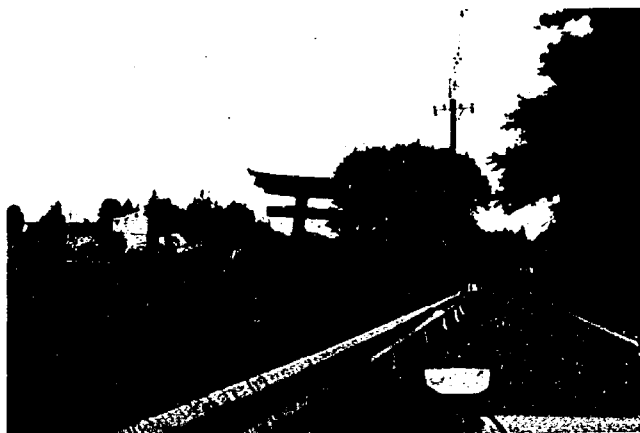


⑦ 鬼怒川水神社（茨城県守谷町）



⑧ 久慈川水神社（茨城県山方町）

堤外地の取水堰の横にある。利水に係わりのある水神社と思われる。

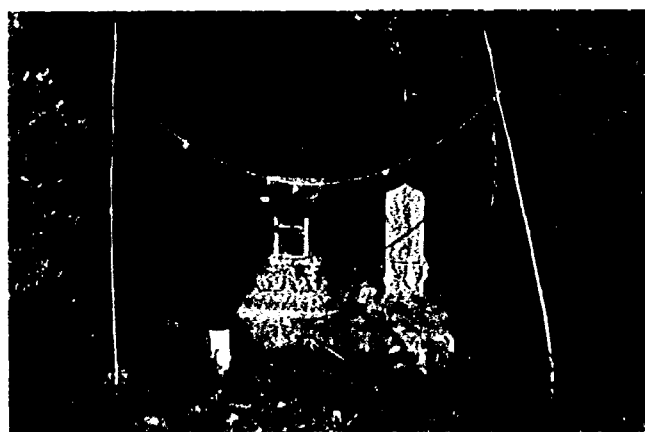


← ⑨ 川をまたぐ鳥居（祝川，栃木県湯津上村）

那珂川流域の祝川にかかる光丸山法輪寺の一の鳥居。お祭りのときに、祝川にみこしを入れてけがれを清めるという。水神社ではないが、川とかかわりのある信仰の一つといえる。

⑩ 久慈川の水神社（茨城県那珂町）

この水神社のとなりに水難防止を祈願する卒塔婆がある。水難除けのための水神社と思われる。



信 仰 (4)

雨乞いの事例

水に関係のある行事として、雨乞いをあげることができる。干天がつづき、農作物が被害を受けはじめると農民は、水神や雷神に対して雨乞いを行う。雨乞いの型式には5種類ぐらいあるという。(i)山頂で火を焚く。(ii)踊りで神意をなぐさめる。(iii)神聖なものに対して禁忌を犯し、神を怒らせる。(iv)神社に参籠し降雨を祈願する。(v)神社や滝つぼから神水をもらい耕地にまくなどである。

雨乞い踊りでは、鉦や太鼓を打ちならして行ったり、竜をかたどった獅子舞いや竜神のみこしをかついだりすることが多い。

竜神の例としては、利根川流域の雨乞いの例がある。

また熊本県山鹿市では小坂や宗方で雨乞い踊りが行なわれる。



⑬ 小坂雨乞い踊り（熊本県山鹿市）

小坂の諏訪神社に伝わる踊りで西丘の坂上の小池に竜（女神）が住んでおり、ひょうたん（男根）を打ち振って竜をあばれさせるという。

出典 「山鹿」山鹿市役所



⑪ 利根川流域（群馬県板倉町）雨乞い竜出典みずのわ



⑫ 雨乞い踊り（香川県多度津町）
多度津町提供



⑭ 宗方万行 次頁参考資料（山鹿市提供）

出典 「山鹿」山鹿市役所

宗 方 万 行

(山 来)

宗方万行は、稲の豊作を願って専ら雨乞いの時だけにする踊りで、山鹿地方では他の部落でも行われており、昔は大変盛んでした。

雨乞いは大てい部落の氏神様に宮籠りし、氏神様の境内、やしろ、部落の中を太鼓、鉦、笛を囃子ながら、踊り手がひょうたんと団扇を持って踊るのが普通であって、宗方万行は雨乞い踊りの代表的なものであると言ってよいとおもいます。

(踊 り)

宗方万行踊りは、部落中を踊り廻ってから氏神様の四面宮様の前で輪になって踊っていました。囃子は、大太鼓に笛、鉦で、踊り手は、昔は男達で、烏追笠に浴衣をつけ裾を端折りタスキを掛け、右手に団扇、左手にひょうたんを持って踊っていました。数には制限がなく昔は大層な人数であったようです。

雨がどうしても降らない時は、山鹿の大宮神社まで踊りに行って仰々しく練り廻っていました。踊りも囃子も簡単で卑俗な面白味と親しみを人々に感じさせてくれます。

一、	サイ	／＼	ヨイトコニヤ				
	宗方万行今出タバイ						
	モツサイサイ		モツサイサイ				
二、	サイ	／＼	ヨイトコニヤ				
	宗方 箆今出タバイ						
	何時も戻リヤヌレ 箆						
三、	サイ	／＼	ヨイトコニヤ				
	嬬モドラバ		サデモドライ				
	後ニヤ 十八		キャヨブタウ				
	モツサイ		モツサイサイ				
四、	サイ	／＼	ヨイトコニヤ				
	アンマリヨカトキャドウスルカイ						
	フウゲタ喰ヘテ息ヤホッホ						
	モツサイサイ		モツサイサイ				

信 仰 (6)

ま つ り

① 天王まつり（天王川・愛知県津島市） 7月の第4土・日曜日

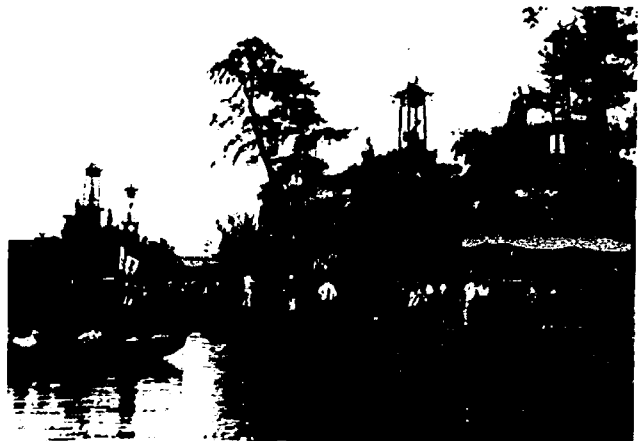
愛知県津島市の津島神社は午頭天王を祭神とした全国各地の津島神社の総本社である。天王まつりは、7月の第4土・日曜日に行なわれる川まつりである。まつりは宵まつりと朝まつりに分かれている。宵まつりは旧津島五カ村から五艘のまきわら舟が出され、その上に半円状に365個の提灯を、また中央の真柱には12個の提灯をかかげ天王川をこぎわたる。

朝まつりは、宵まつりの翌日に行なわれ飾りつけを替えた津島五艘に、旧市江村より出される一艘を加え、計六艘の車楽舟がこぎ出す。車楽舟は屋台の上に小屋台橋掛りを組み、能人形を飾る。古楽を奏しながら漕ぎ進む。舟が中之島近くまで進むと、市江舟の若者10人が布鉾を持って水中に飛び込みお旅所まで泳ぎ、みこしに参拝し、さらに神社へ走る。この布鉾にさわると病気が治癒するといわれている。すなわち、きよめの一種と考えられる。

朝まつりの終わった深夜、津島神社の神職だけで「神葭^{うよし}流し」の神事が行なわれる。神葭は、深夜天王川に運びだされ、人々の罪・けがれを托して川へ放流される。



⑮ 宵まつり 写真：津島市提供



⑯ 朝まつり 写真：津島市提供



⑰ 古座の河内祭

・ 古座の河内祭（古座川・和歌山県古座町） 7月25日

河内神社のおまつりで、伝馬船に神輿をのせて何隻かで川をわたる。舳先には座女がのり、その姿には、荘厳なものがある。

出典 「南紀・勝浦温泉」（那智勝浦町観光協会）



⑱ 速玉の御船祭

出典 「南紀・勝浦温泉」那智勝浦町観光協会

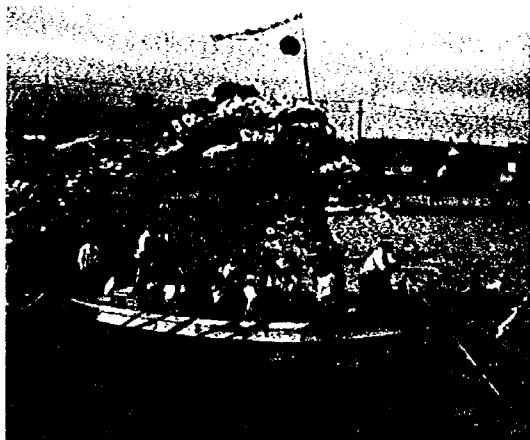
◀ ◦ 沖端水天宮祭 (福岡県柳川市) 5月3, 4, 5日 →

堀割に川船6隻を組み合わせた三神丸とよばれる船舞台を浮かべ、三日三晩堀割を移動して京風の囃子と芝居が披露される。この囃子はオランダ囃子と呼ばれ、三味線の音にあわせて締太鼓が打たれる。起源は文化文政の頃といわれている。子供の水難事故防止を祈願する参拝客で賑わう。



⑲ 沖端水天宮祭

出典 「水郷・柳川」柳川市観光協会



⑳ ホーライエンヤ

出典 「みほとけの里 ぶんど 高田」
豊後高田市商工観光課

◀ ◦ 白秋祭 (福岡県柳川市) 11月2日 →

北原白秋の命日11月2日に祭りが行われる。前日には、盛大に前夜祭が行なわれ、ほうづき提灯やアンドンでかざられた約80隻のどんこ船が夜の川を行進する。途中の河岸には数ヶ所で仕かけ花火や打ち上げ花火があげられる。



㉑ 白秋祭

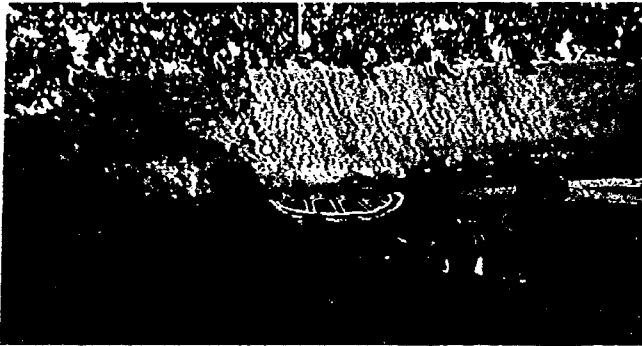
出典 「水郷・柳川」柳川市観光協会

信 仰 (8)

みこしをかつぐ祭り、はだか祭り

・川渡り神幸祭(彦山川, 福岡県田川市) 5月第3土・日 →

田川市の風治八幡神社の神幸祭。神幸祭とは、神が本社から他所へ移る祭りである。田川では、このお渡りの時に川を渡る。



②③ 妙見祭

↑ 出典 「くまもとロードマップ」

・妙見祭(水無川・熊本県八代市) 11月18日

九州三大祭りの一つで、異国情緒ある中国風獅子舞や2畳ほどの甲羅と蛇の首をもった亀蛇が市内をねり歩き妙見宮へ奉納する。そのあと、水無川の河川敷で獅子舞や馬追いなどを市民に披露する。

・裸祭(大分県豊後高田市) 旧10月14~16日 →

若宮八幡宮の秋祭り。みそぎのために、川にとびこみ、神輿を対岸まで渡す。



②⑤ 池の上裸祭り
出典 「岐阜GIFU」 岐阜市



②② 川渡り神幸祭
出典 「ふくおか」 福岡県



②④ 裸祭り
出典 「みほとけの里ぶんど高田」 豊後高田市商工観光課

← ・池の上裸まつり(長良川, 岐阜市) 12月10日

葛懸神社のまつりで、厄男を中心として、神社からもみあって長良川の清流に飛び込む。みそぎ行事で夕方から夜中まで3回行なう。人々が押し合いもみ合いをするまつりは、一般に裸で行なわれる。その方が怪我が少ないという。

信 仰 (9)

・鹿島流し (秋田県大曲市・丸子川) 旧5月27日

大曲市では、旧暦5月27日に各地区の鹿島流しが行われる。鹿島さんと呼ばれる紙細工の武者人形をつくり諏訪神社で祈禱を受けたあと丸子川に流す。神宮は河童の扮装をして舞う。

現在では、小学校の児童たちが鹿島船を作り交通安全などの思いをこめた旗などで飾りつけ、流している。



②⑥ 鹿島流し

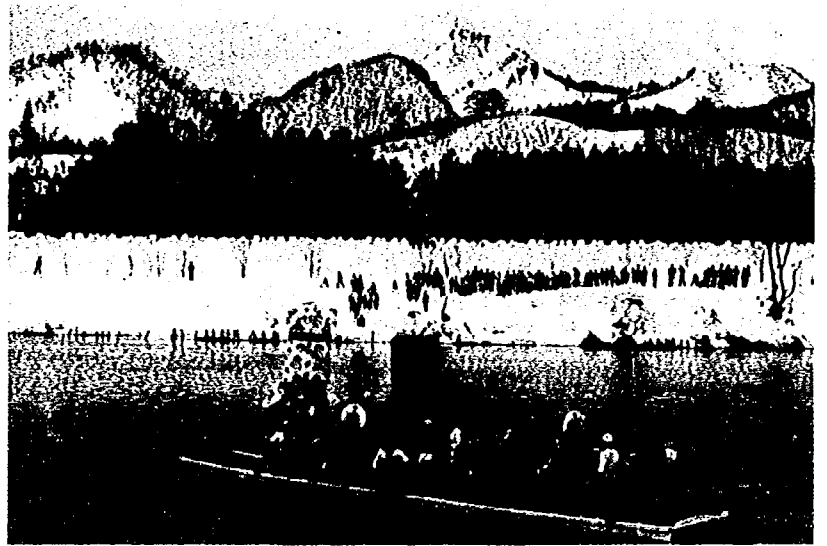
出典 「大曲」大曲市

・川を渡るぼんでん

(秋田県大曲市・雄物川) 2月17日

2月17日に高関上郷、高関下郷両村では10数本のぼんでんを伊豆山神社に奉納する。

各部落のぼんでんは午前8時ごろより町内をねり歩き、一の鳥居をくぐり、雄物川の蛭川渡船場より対岸へ舟で渡る。



②⑦ 川を渡るボンデン

出典 「大曲」大曲市役所

カッパ信仰 (熊本県八代市)

全国的にカッパに関する民俗信仰が普及している。河童は、水神が落ちぶれたなれの果てなどの説がある。ここでは、熊本県八代市の事例を紹介する。

八代市は、河童渡来の地として有名であり市内には、河童にまつわる伝説やまつりが点在する。

八代市の河童は今から1600年程前に中国から9000坊の河童が海を渡って来て住みついたといわれている。八代は徳川の津とよばれる港で中国との交易も盛んで習俗の異なる中国人をカッパとして認識していたものと思われる。



②⑧ カッパ渡来の碑

出典 「やつしろ」八代市

川めし、川施餓鬼

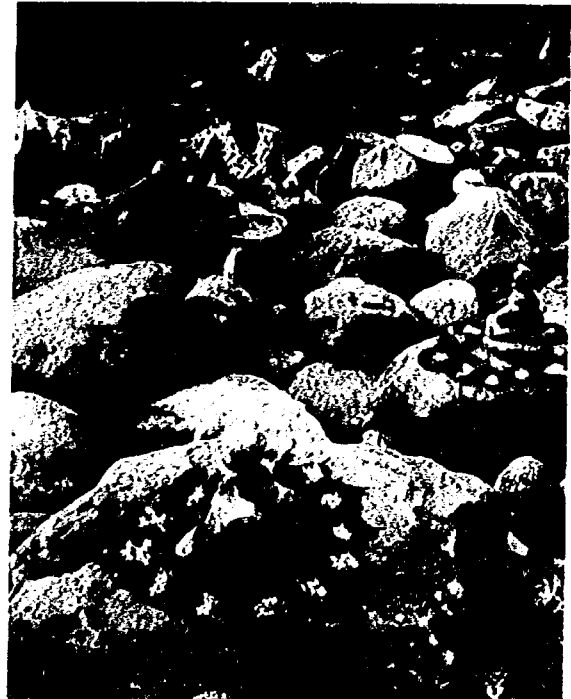
盆の行事として、川原で食事をしたり、灯笼流しを行なう習俗は全国各地に広く分布している。川を通路とみなし、先祖を迎え送ったり、無縁の施餓鬼を供養したりする。

・川めし（別当川，香川県内海町）

内海町の別当川では、8月14日早朝に家族単位で川原に集まり、五目めしを炊き、餓鬼を供養する。前日の8月13日に川原を清掃し、釜床、座敷を作るなどの下準備をして、翌日五目飯を炊く。柿の葉を主体とした広い木の葉に盛りつけ、水辺の石を積んで無縁仏を供養する。その後、皆で川めしを食べる。川めしは川原で処



㊹ 別当川で川めしを食する人



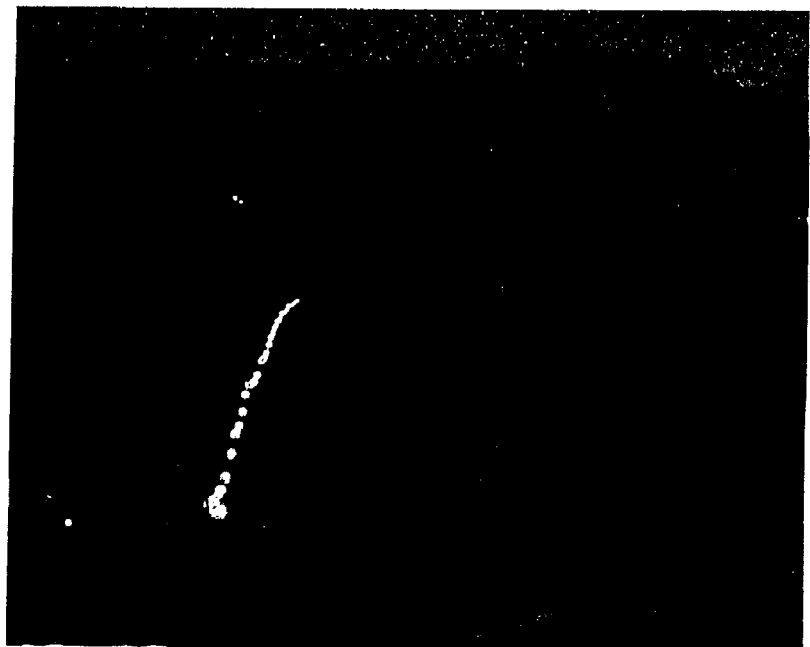
㊺ 別当川で無縁仏に川めしを供する
内海町提供

分し家には持ち帰らない。町指定の無形民俗文化財に指定されている。

・灯ろう流し（丸子川,秋田県大曲市）

灯ろう流しは全国各地で見られるが、その一例として大曲市の灯ろう流しを紹介する。

丸子川畔に特設祭壇を設け、先祖の霊を慰め僧侶が読経する。その後約2,000個の灯笼がつぎつぎと丸子川に流される。



㊻ 灯ろう流し（丸子川）

流しびな

3月に河原や磯で子供の行なう共同飲食行事の習俗が全国で見られる。これは神送りの儀式と関連があるようで、その中で紙で人形を作り罪・けがれを付して送り流す行事が雛まつりの源流であろう。雛人形は、江戸時代初期までは紙びなであったと言われている。現在では、流しびなの習俗は、長野・鳥取など一部の地方で見ることができる。

・長野の流しびな（長野県北相木村）



③② カナンバレ（長野県北相木村）

↑ 3月3日に川原で石をあつめかまどを作ってお汁粉を作る。



③④ 流しびな（鳥取市）
出典 「鳥取」



③③ カナンバレ（同左） 北相木村 提供

↑昔は、米俵の上下にあてるフタのサングワラの上に、おひな様をのせて流したというが、今日では子供達は風船などを用いたり色々と工夫して流しびなを楽しんでいるようだ。

この行事も、けがれや災いを祓うことを目的としたらしい。カナンバレは禍難離れか。



③⑤ 流しびな人形

←・鳥取市の流しびな

旧暦3月3日、朝10時より子供達が袋川河畔よりさんだわらにのせた紙びなを流す。千個ぐらい流される。

さんだわらにのせた紙びなは民芸品となって売られている。

生活 (1)

用水源としての利用

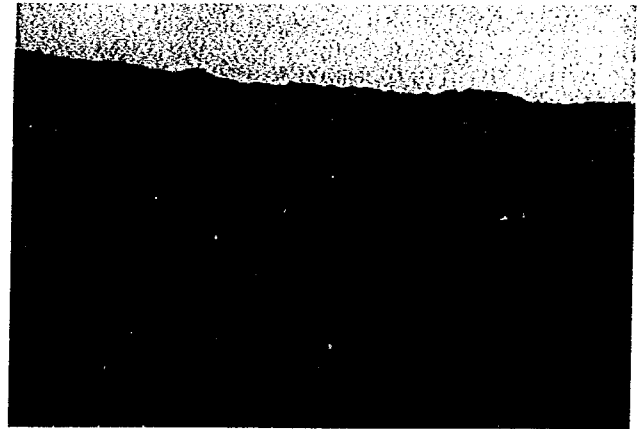
・ 通潤橋（熊本県矢部町）

安政元年に惣庄屋布田保之助が灌漑用水を通す通水橋として完成させた。緑川から取水し、6 km下流の的台地上にある200 haの排水を分配し水稲耕作を可能とした。写真の橋の中には3本用水路が通っており、管の中に土砂などが堆積した時に、橋の真中にある放水管より水を放流する。昭和36年に重要文化財に指定されてからは、通潤橋への配水は行っておらず観光用に放水するのみとなっている。9月初旬の八朔祭りには無料で放水する。土地改良区に申し込み料金を払えば、放水してくれる。放物線を描く放水は実にみごとである。



① 通潤橋

出典 「くまもとロードマップ」

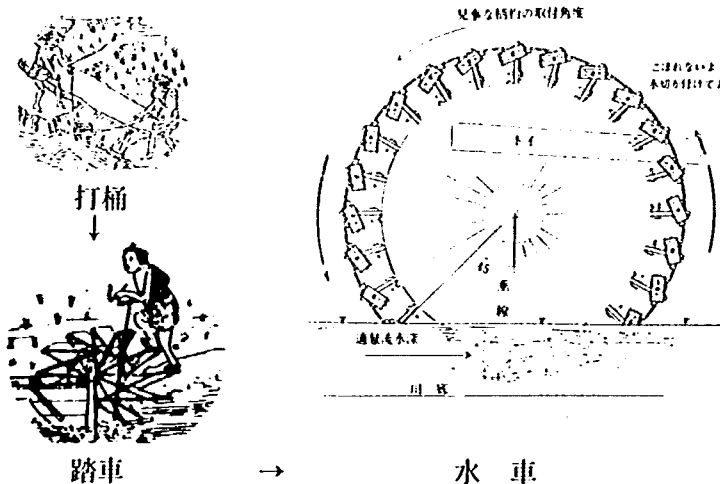


② 三連水車（福岡県・朝倉町）

出典 「ふくおかの旅」福岡県

・ 三連水車（福岡県朝倉町）

筑後川右岸の朝倉町に三連水車がある。この水車は、1800年頃に作られたもので、それまで踏車とよばれる人力の水車を使っていた当地の人々にとって水車の自動化は画期的なことであったであろう。灌漑面積は13.5 ha、一日揚水量は約7,800トンである。3つの水車とその径は異なりその回る速度には遅速がある。



③ 水車の変遷

表 3.1 水車の揚水量

計	下 車	中 車	上 車	
枠組延長 14.40	m 3.98	m 4.30	m 4.76	径
	秒 8	秒 10	秒 15	一回転の スピード
	(20×2) 40 本	(22×2) 44 本	(24×2) 48 本	日ノ脚
132	(両橋り) 40 ケ	(両橋り) 44 ケ	(両橋り) 48 ケ	橋り数
7.25	(4升) 7.25	(4升) 7.25	(4升) 7.25	橋り一箇 の容量
957.0	290.0	319.0	348.0	一回転当 揚水量
	10,800 回	8,640 回	5,760 回	一回転当 一日当り
1日当り計 7,892	3,132	2,756	2,004	一日当り 揚水量

出典 「朝倉の水車」

生 活 (2)

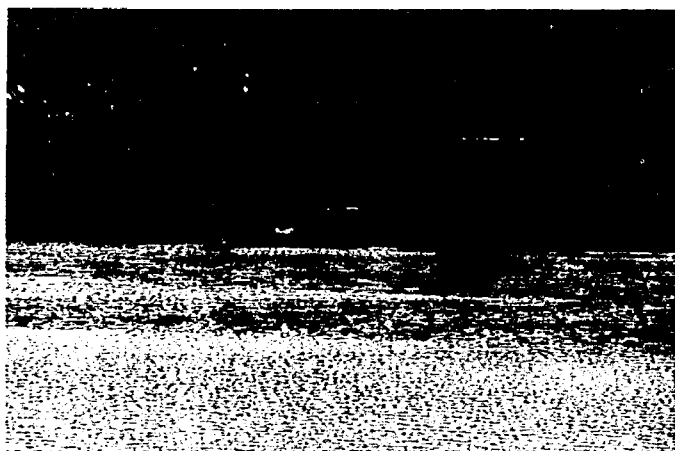
洗 う



④ 足踏み洗濯（津山市）観光の目玉として残った足踏み洗濯 出典 21世紀の河川



⑤ 洗濯（郡上八幡）雑排水専用の水路を流れる。



⑥ 野菜洗い（那珂川，茨城県御前山村）



⑦ 漬け物用野菜洗い（山形）

出典「観光山形」山形市産業部観光物産課



⑧ 犬を洗う（那珂川，茨城県勝田市）

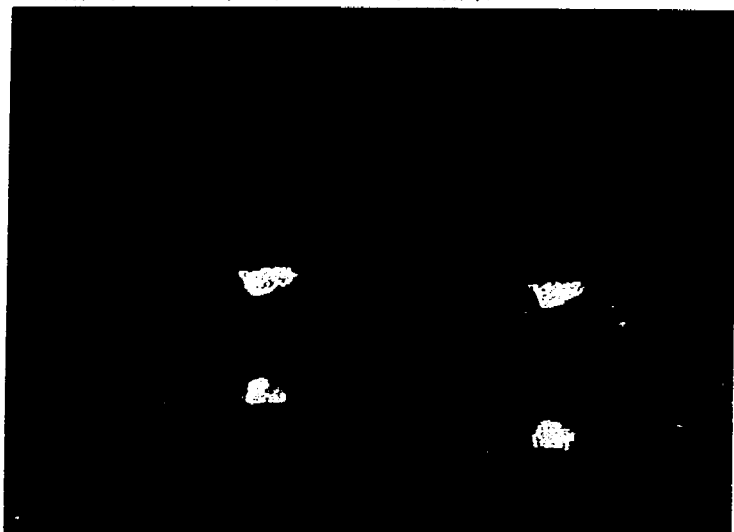


⑨ 紅花花びら洗い（山形市）

出典「観光山形」山形市産業部観光物産課

生 業 (1)

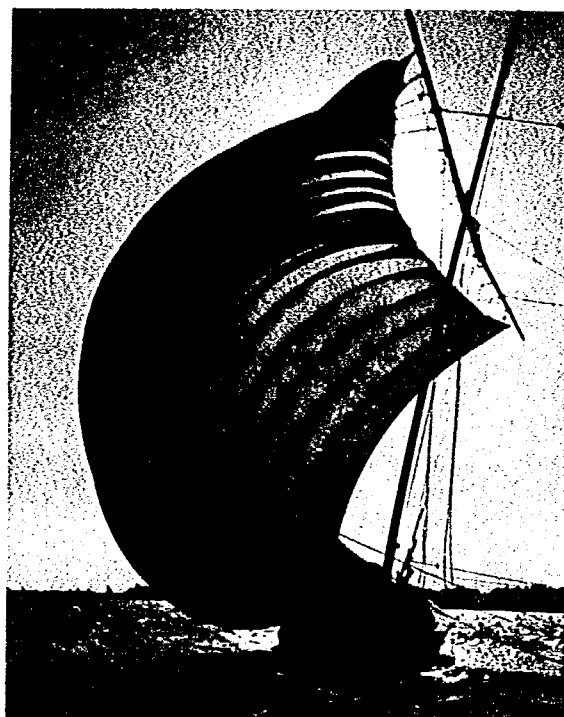
観光化・レジャー化しつつある漁業



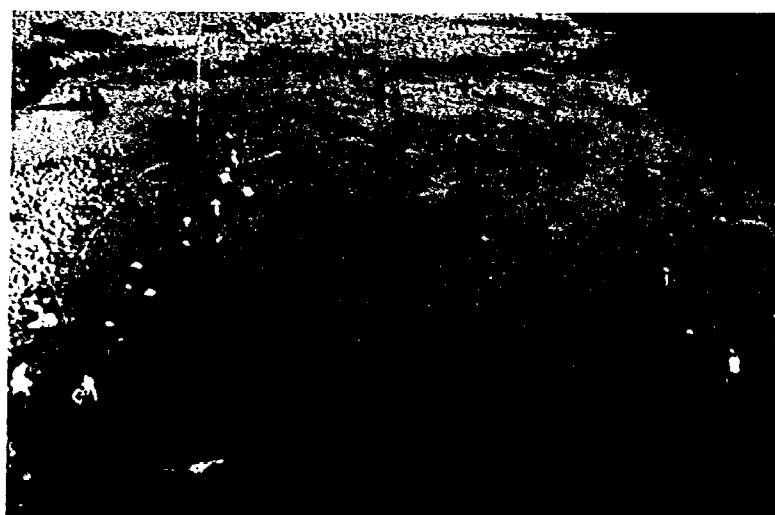
① うかい（長良川・岐阜県）
出典 「岐阜」岐阜市



② や な
出典 「フレッシュ会津バック」



③ 帆船（北浦）
出典 「土浦」土浦市産業部商工観光課



④ あゆつり
出典 「只見」只見町観光協会・只見町産業観光課

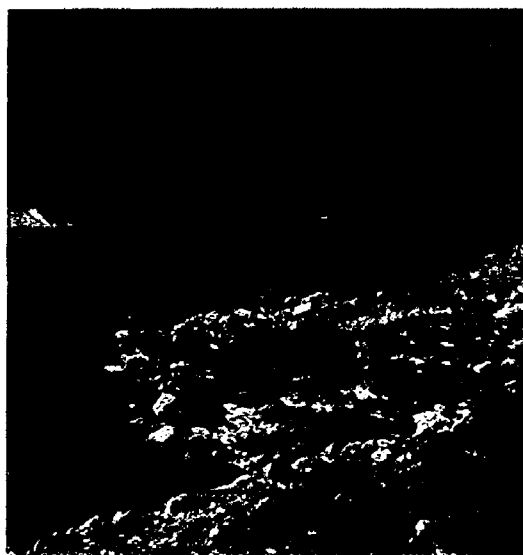
生 業 (2)

漁業→観光



⑤ つり魚まつり

出典「いで湯の里, ロマンを求めて」静岡県



⑥ あやめ祭り (下部町パンフレットより)

出典「しもべ」山梨県下部町観光協会



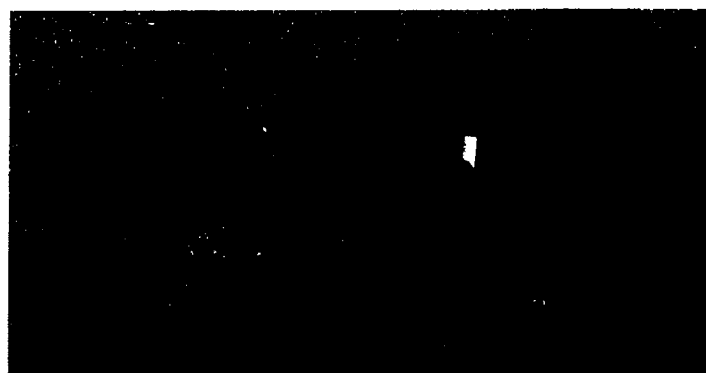
⑦ 天塩川でのしじみとり(天塩町パンフレット)

出典「天塩」天塩町・天塩町観光協会・天塩商工会



⑧ やまめの釣り場となった河川

出典「ヤマメの里」山梨県



⑨ 佐原の釣り舟

出典「佐原」佐原市・佐原観光協会

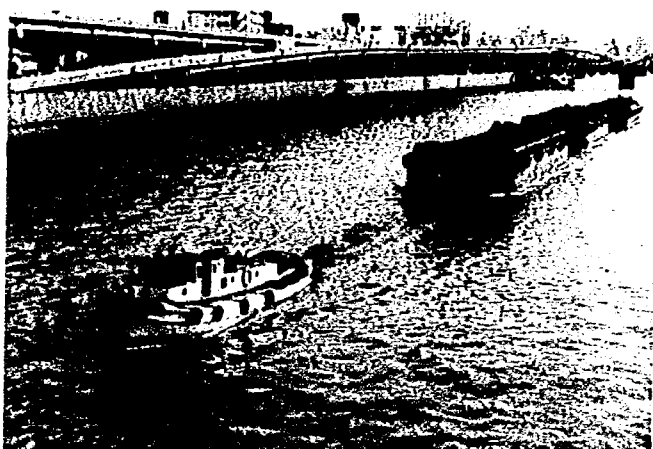


⑩ 豊平川の鮭

出典「さっぽろ」

生 業 (3)

舟 運

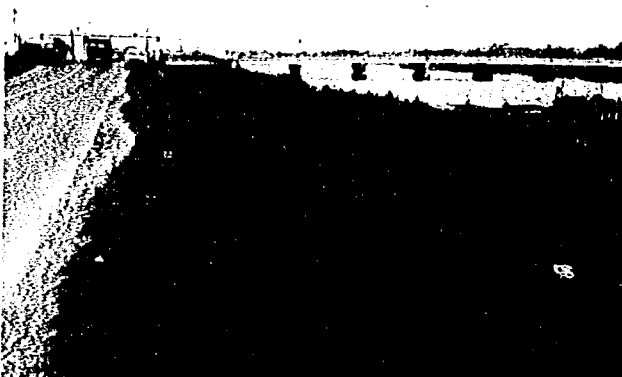
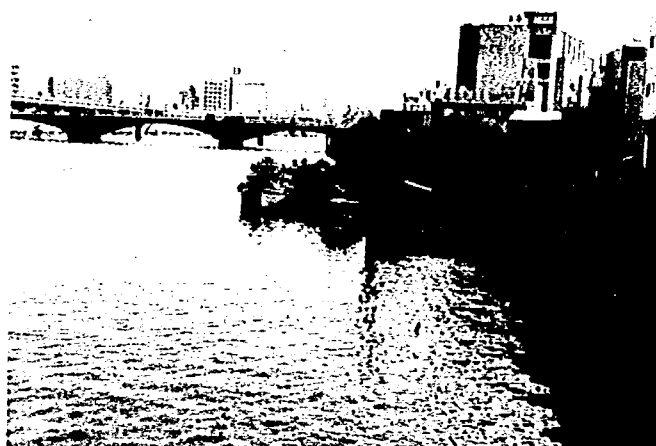


← ⑪ 隅田川における舟運

エンジンを備えた船が1隻ないしは2,3隻の船を索引するダルマ船は隅田川の風物である。これらは上流の工場から東京湾へ製品を運ぶ。

⑫ 隅田川における舟運 →

東京都清掃局の船が、し尿を東京港へ運ぶ。鷹橋より下流をのぞむ。



← ⑬ 中川における舟運

東京港より中川を経由して工場までオイルを輸送する。

⑭ 目黒川における舟運 →

東京都清掃局の船が品川区大崎にてし尿を積み東京湾まで運搬する。



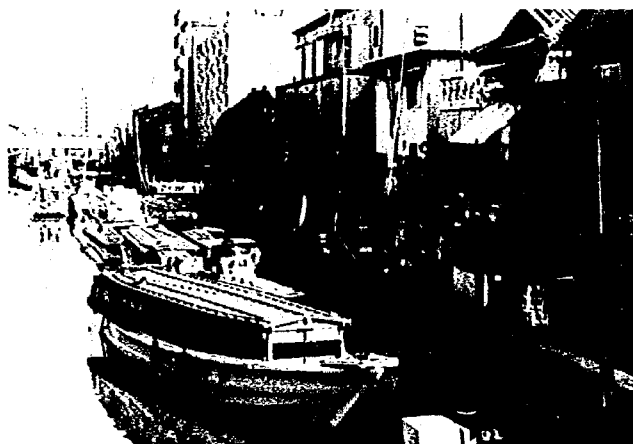
生 業 (4)

舟 運

⑮ 河口における漁港 →

二級河川矢田川河口が漁港となっている。

(愛知県常滑市大野町)



⑯ 神田川における船宿 →

神田川の隅田川合流点柳橋には9軒の船宿があり、東京湾へ釣り客を運ぶ。国鉄・地下鉄浅草橋駅に近い。



←⑭ 隅田川における屋形船

隅田川の水質向上とともに屋形船が復活し、釣り、会合、花火等に利用されている。写真は隅田川左支川北十間川に停泊中の屋形船である。

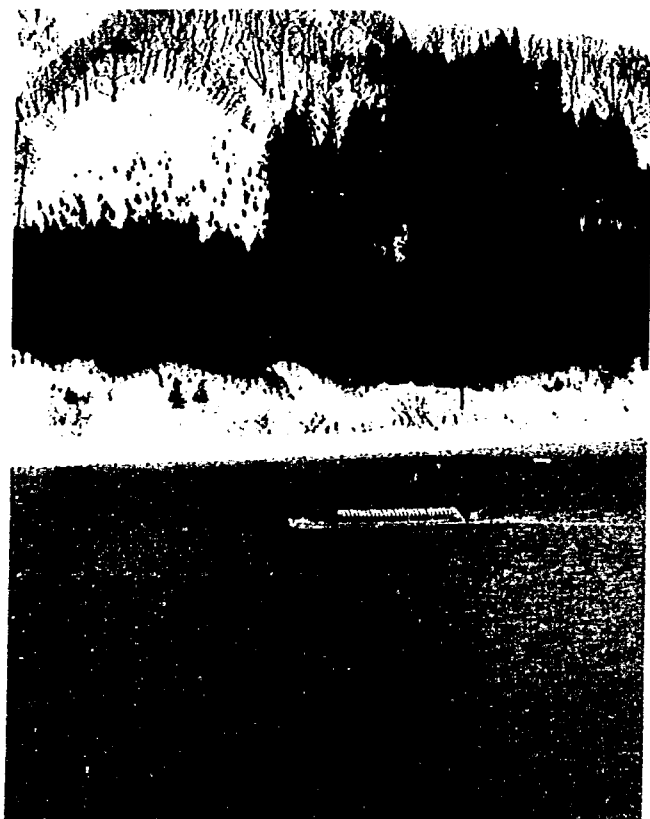


←⑭ 筑後川における屋形船

大分県日田市内のいわゆる三隈三川では観光客と対象とした鶴飼、舟遊びの施設が整備されている。

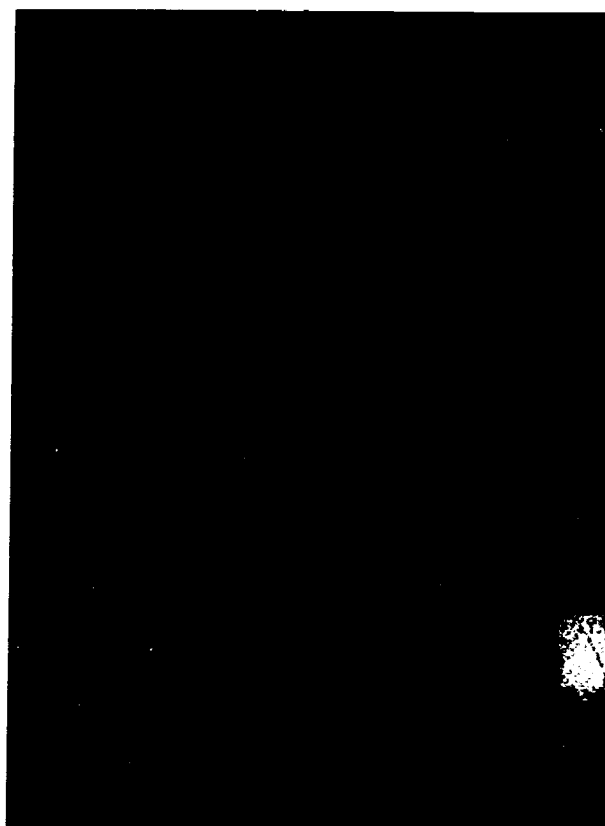
生 業 (5)

観光化しつつある舟運



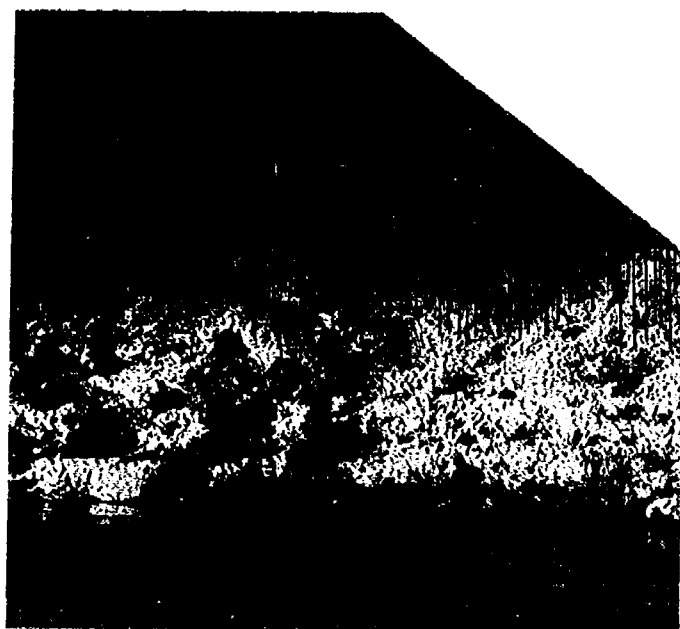
⑱ 最上川の川下り

出典 「観光山形」山形市産業部観光物産課



⑳ 渡しの夕暮れ / 松戸市

出典 「おいしさ、たのしさ、いっぱい房総」
千葉県・(財)千葉県観光公社



㉑ 保津峡舟下り

出典 「保津川下り」京都府

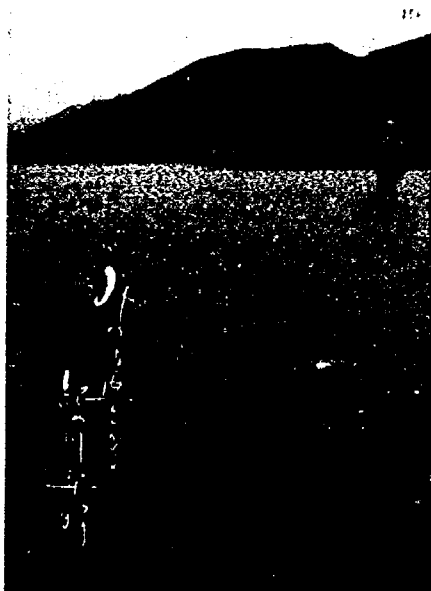


㉒ いかだ下り

生 業 (6)

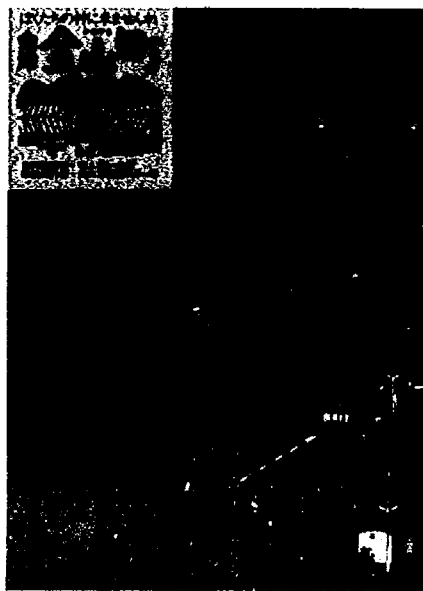
河川を中心とした観光地、パンフレットより

河川を観光の目玉とした観光地は全国各地にみられる。ここでは、観光パンフレットの表紙に河川を大きく打ちだした4つの地区について紹介する。



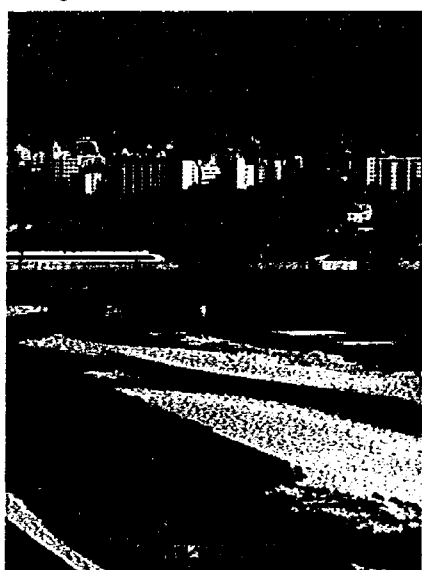
㉓ 紀の川（和歌山県パンフレットより）

紀の川を和歌山平野の母として位置づけ、アユや穀物をもたらす稔り豊かな存在として位置づけている。



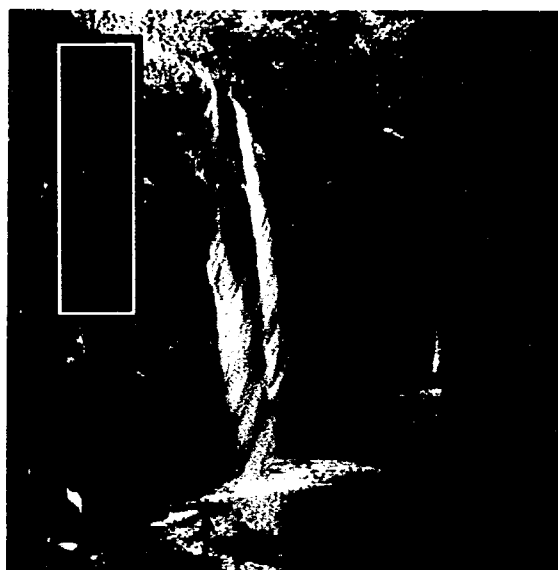
㉔ 只見川（金山町パンフレットより）

只見川を自然の象徴として位置づけ、渡し舟、山入川との合流点にある伊夜彦神社、アユ釣りなどを紹介している。



㉕ 広瀬川（仙台市観光パンフレットより）

仙台市の中心を流れる広瀬川を歴史、文化、自然の象徴としている。このパンフレットでは河川に沿って自然・歴史・文化について紹介している。

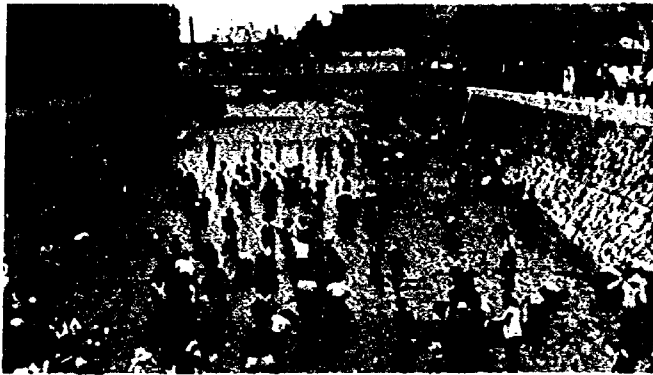


㉖ 高千穂川（宮崎県高千穂町観光パンフレットより）

高千穂川のもつ神秘的なイメージを天孫降臨の地、神話の地としての高千穂と結びつけている。

社 会 (1)

地域行事



① 河川清掃（都賀川・神戸市）

出典 「21世紀の河川」建設省



② 長岡まつり花火大会（長岡市）

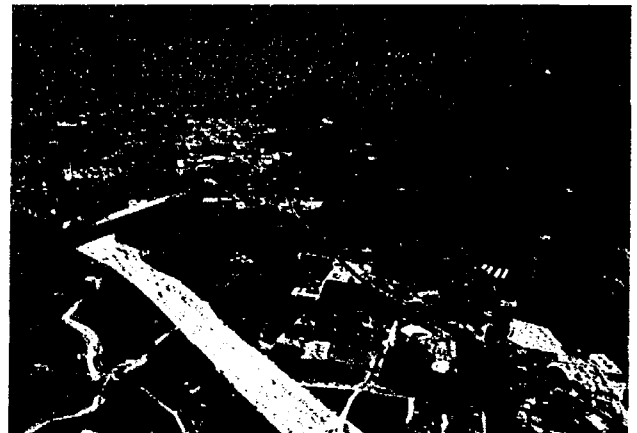
出典「れじゃあまっぶにいがた」新潟県観光協会

軍事活動

河川は、軍事上重要な防衛手段または攻撃用の武器として古来より用いられた。その著名な例は、白村江の戦いの時に太宰府に設けられた防御用の水城であり、秀吉の行った高松城の水攻めであろう。また、江戸時代に設けられた多くの城は、大河川を外堀として利用している。



③ 水城



④ 同左 大野城市提供

・ 水城（大野城市，太宰府市）

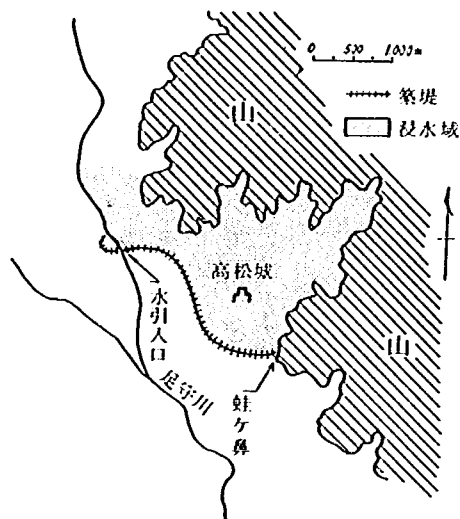
水を用いた防御堤の最古のものと思われる。日本書紀に「筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ，名をつけて水城という」とある。白村江の戦いの後，唐・新羅の来襲にそなえて665年に築城されたもので，博多から太宰府に至る御笠川流域平野を横断した延長約1km，幅40m，高さ13m程度の堤防である。現在は途中を鉄道や道路などで分断されている。

社 会 (2)

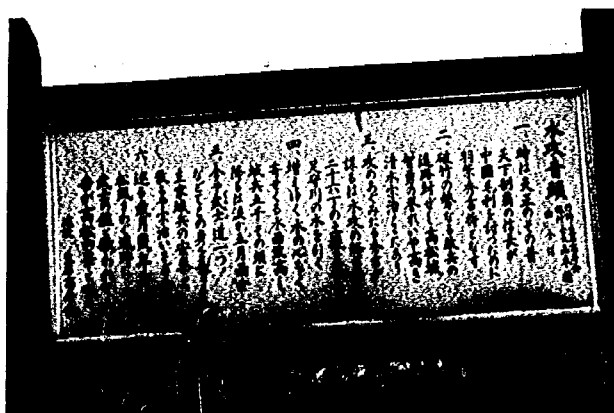
・高松城の水攻め

羽柴秀吉が行った高松城の水攻めは、河川を利用したいくさの代表的なものといえる。岡山平野北部に位置する高松城は沼城で守りは非常に堅固であった。秀吉は、長さ 3,119 m 基底部 20~24 m 天端幅 10~12 m 高さ 7~8 m の堤防をわずか12日間で完成し、足守川の水を引いて水攻めにした。

頂度、梅雨期であったので、188ヘクタールの湖と化した。



⑤ 高松城趾から北東を臨む……平坦な地で水没した様子が想像できる。



⑥ 高松城趾にあった看板



③ 蛙ヶ鼻の築堤跡

おさ川の河童

むかし、いつのころか、地頭方の堀野新田に、おべんという、美しい娘が住んでいた。ある夏の日のことだった。
 おべんが自分の家の近くに流れている川の土手を歩いていると、川上からはた織り道具の、おさ、が一つ流れてくるのを見つけた。
 『おや、これは……』。『おべんは急いで土手をかけおけると、おさ、をかきよせ、手をのばして拾い上げようとした。すると、おさはたちまち河童の姿に変わった。おべんの手をぎゅつとつかんだ。『アッ——』。『おべん、はびつくりして、必死に逃げようとしたが、河童の力は強く、おべん、はついに、川の中にひきずりこまれてしまった。おべんの『助けて——』と、いう声も、むなしく草いされのする土手に消えていった。おべんをのみこんだ川の水は、なにごともしなかつたように、静かに流れていた。つぎの日の朝、川の土手に草刈りに行った近所の人、いたましい姿に変わりはてた、おべんの死体を見つけた。『まあ……まあ……かわいそうに』。村の人たちは集まってきて、大さわぎして、おべんの死体を引きあげた。そして、一人がさげんだ。『アッ！尻子玉がぬかれている。』『河童だ、河童の仕業だ。』おそろしいことだ。河童は人間の尻子玉を抜くと、よく言い伝えられているからだ。それから後、この死体の浮いた淵を、『おべんが淵』と呼び、おさが流れていた川ということから、この川を、おさ川、というようになった。



① 河童の伝説 出典 「さがら」静岡県相良町

千曲川旅情の歌

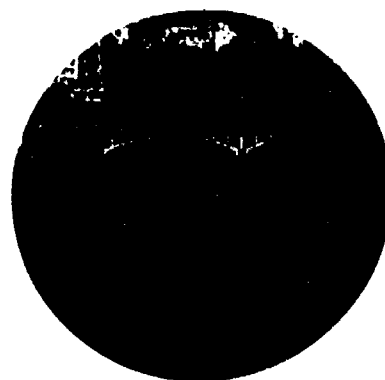
昨日またかくてありけり
 今日もまたかくてありなむ
 この命なにを^{かく}経^るぬ
 明日をのみ思ひわづらふ
 いくたびか^え栄^ひ枯^るの夢の
 消え残る谷に下りて
 河波のいざよふ見れば
 砂まじり水巻さかへる
 嗚呼^{ああ}古城^{きやうじやう}なにをか語り
 岸の波なにをか答ふ
 過^とし世を静かに思へ
 百年^{ひゃくねん}もきのふのごとし
 千曲川柳霞みて
 春浅く水流れたり
 たゞひとり岩をめぐりて
 この岸に愁^{おも}を繫^つぐ

② 千曲川旅情の歌 出典 「さんろく」浅間五山五高原開発推進協議会



③ 萩原朔太郎の詩

出典 「まえばし」前橋市役所商政課



④ 伝説を秘めたおたまや橋

出典「広瀬川の流れとともに」

仙台市経済局商工部観光課

教 育 (1)

教育の場となる



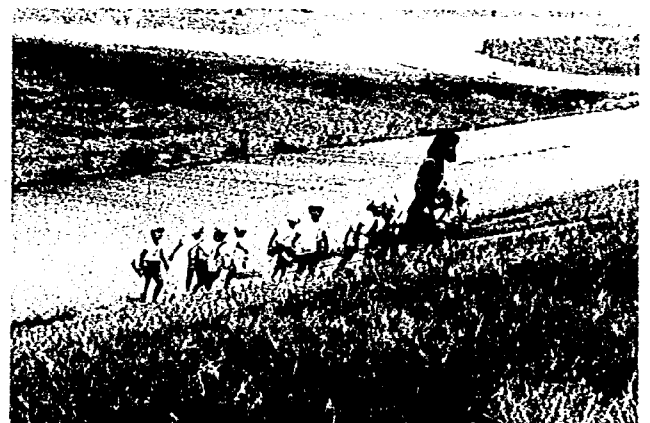
① 中学校の写生大会 (淀川)



② 小学校の遠足 (那珂川・茨城県)



③ 野球部のトレーニング (住吉川・神戸市)



④ 幼稚園の遠足 (淀川)



⑤ 測量実習 (淀川)



⑥ 橋から川を見る保育園の子供(横十間川・東京)

社会の教材

小学校の4年生の時に治水を中心にして教育をうけるが、社会科の教科書の一例を以下にあげる。小学校の時に、こんなに河川について詳しく習ったかしらと思う程、表現はやさしいが、内容は高度である。

●4年上のもくじ	
一 けんこうでゆたかな生活	2
(一) こみのしやう	4
(二) 水道や下水道をふやす	20
(三) わたしたちの生活と電気やガス	34
二 安全な生活	42
(一) 火事をふせぐ	46
(二) 大水をふせぐ	60
三 人々のくらしをよくするために	72
(一) 公園と人々のくらし	76
(二) 公民館などのしせつと市の人々のくらし	90
むすかしいことば	106
●4年下のもくじ	
四 きやうどを開いた人々	2
(一) 用水路をつくつて水をひく	6
(二) 川の流れをかえて大水をふせぐ	24
五 いろいろな土地のくらし	40
(一) 低地の人々のくらし	44
(二) 高原の人々のくらし	56
(三) 一年じやあたたかい土地の人々のくらし	68
(四) 寒い土地の人々のくらし	80
むすかしいことば	94

参

「新しい社会4上下」

東京書籍株式会社



(三) 大水をふせぐ
おそろしい水害

●大水がおこると、人々のくらしに、どんな害をあたえるか。

日本の各地でおこった大水の写真を見て、みんなて、水害のおそろしさについて話しあいました。

話しあいをしているうちに、郡山市には水害はなかつたのか調べてみようということになりました。そこで高木くんが家の人に聞いてきて発表しました。

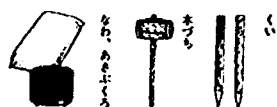
高木くんのおじいさんの話

大雨が長くつづいたうえに、台風の雨で、阿武隈川の水の量がふえ、あちこちで、ていぼうが切れた。この家にも、あつという間に水がおしよせて、たたみの上まできた。にげるのが、せいいつばいだつた。雨があがつてから家にもどつたが、食料も、ふとんも、家具も、みな水びたしだつた。何日かたつて、家の中の水はひいたが、家のまわりのひくいところは、池のようになつていた。

どろ水をかぶつた家の中や家具をそうじするのがたいへんだつた。

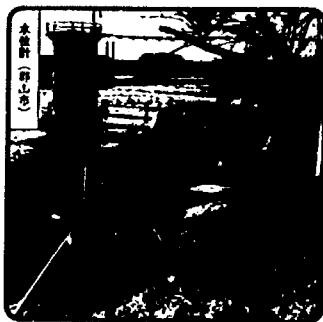
飲み水がなかなか手にはいらなくて、ほんとうに苦勞した。それよりも、みんなを苦しめたのは、病気がはやつたことだつた。

県や国からもらったもうふを板の間にしいてねたが、不安な毎日だつた。あんな大水にあうと、もとのくらしにもどすのはたいへんな努力がいる。もう何十年もたつたが、あのときのことはわすれない。



れど、みんな気がついていかしら。あの中には、大水のときに使ういろいろな道具がはいっていると、父に聞きました。くい、くいを打ちこむ大きな木づち、土のうをつくる材料などです。

川のようなすを、よく知らない人が多かったので、みんなで調べに行くことにしました。倉庫があるあたりのていばうは、よくせいびされています。また、川の水の深さをはかる水位計がありました。



81

大水にそなえるしせつ

● 水害から人々を守るために、どんなふうをしているか。

「水害から人々を守るために、市でくふうしていることを知っていますか。」

と、先生がおっしゃいました。すると、川の近くに住んでいる青木さんがいました。

「川の土手に、水防倉庫と書いてあるたてものがあるけ



82

水防団

● 水防団は、どんなしくみで仕事をすすめているか。

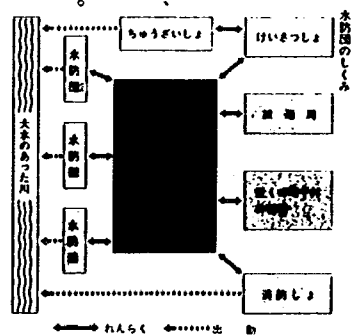
「大水のときに、水防倉庫の道具を使つてはたらくのは、だれなんですか。」

木村さんがしつもんしました。

先生が水防団のしくみをしめた図を、見せてくださいました。

「あれ、これは、消防団のしくみと同じだよ。」

中田くんがいました。

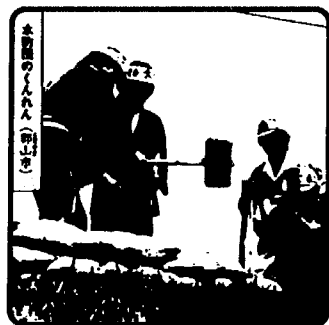


84

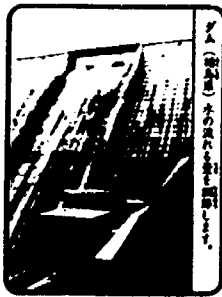
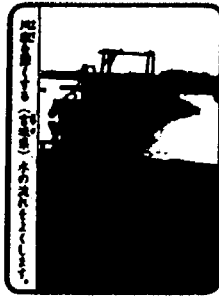
「よく気がついたね。水防団と消防団は、同じ人をつくられているんだよ。水防団の人は、雨の多い季節が近づくと、水防くんれんをします。そのようすをスライドで見てみよう。」

先生がそういつて、スライドを見せてくださいました。

くいを打ちこむ人、土のうをかついで運ぶ人、みんなの顔も、しんけんそのものです。れんらくのしかたを、くんれんしている場面もありました。



85



川にかんけいのあるものです。それぞれの地いきで、大水をふせぐための工事がおこなわれていることがわかるね。川の上流の地いきにふった雨は、やがて下流におしよせてきます。だから、川が流れている全体の地いきのことを考えて、それぞれ地いきで、もつともひとつような工事をしなければならぬのです。」

と、先生がおっしゃいました。みんなは、阿武隈川を例にして、もつとくわしく調べてみることにしました。



大水をふせぐ努力

●大水をふせぐために、市や県や国は、どんな努力をし、どんな計画をすすめているか。

「このごろは、大水があまりないね。どうしてかな。」

と、先生がおっしゃいました。

「りっぱなていぼうができたから。」

「火事と同じように、市も大水をふせぐために、努力しているためだと思えます。」

いろいろな意見がでました。

「左の写真は、阿武隈川やそこに流れこむ

○ 大水をふせぐ努力

- ・ていぼうをつくらたり、ダムをつくらたりする。
- ・川底を深くする。
- ・一つの市がかつてに工事をする

と、下流の市や町や村にめいわくをかける。

・川のどこをどうなおすのかは、市や町や村と、県、国とが話しあって、協力する。

・水運をひくときと同じように、大水をふせぐには、広い地いきの協力がひつようだ。

「ていぼうは、あわせると何十キロメートルにもなるね。」

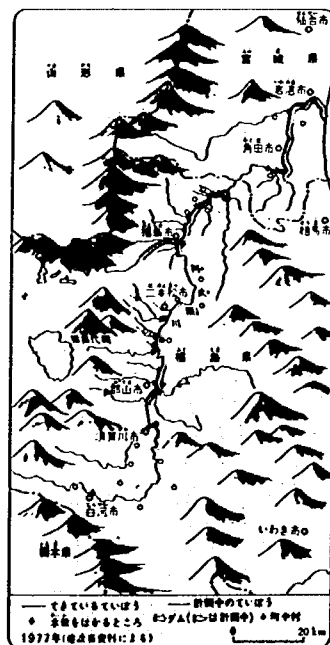
「川をおす工事は、とても一つの市だけではできないよ。」

地図を見てみんなで話しあったことを、山口さんが上のようにまとめました。

「阿武隈川の水の量がふえてきけんになると、国から県へ、県から市や町や村へと、大水ちゅういほうを出して、れんらくすることになっているのだよ。」

と、先生がせつめいしてくださいました。

同上



先生が、右の地図を見せてくださいました。

「阿武隈川には、たくさんさんの川が流れこんでいるね。」

「川すじには、いくつもの市や町や村があるわ。」

(三) 川の流をかえて大水をふせぐ

まがりくねった阿武隈川

●阿武隈川は、むかしといまとでは、どのようにかわったか。

先生が、一まいの地図を黒板にはって、

「これは、どこの地図だろう。」
とおっしゃいました。

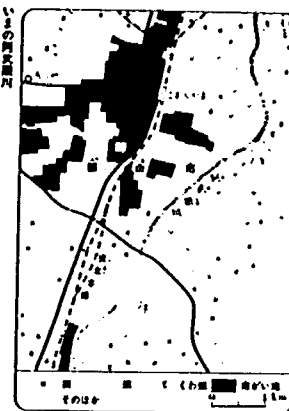
郡山駅があるので、郡山市の

地図です。

青色のすじは、阿武隈川です。

と、すぐ答えがでました。

「それでは、これはどこの地図



SECRET

かわかるかな。

とって、もう一まいの地図を、

黒板におはりになりました。

「にているようにだけと、川の

形がぜんぜんちがうね。」

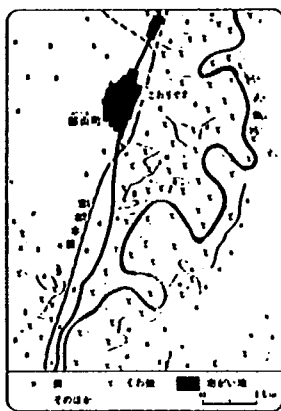
「阿武隈川のもとと上流か下流のところかな。」

あまり自信のなさそうな意見ができました。そのうちに、

「むかしの阿武隈川かな、あとで、だれかがなおしたんだ。」

という意見もてました。そのとき、先生がおっしゃいました。

「それでは、こんどは、阿武隈川のことを調べてみよう。」



じかしの英文書

たびかさなる大水

●大水は、どこで、どのくらいおこったか。

阿武隈川は、むかしから大水が多かつたといふことですが、ほんとうに、い

つも大水が出たのですか。

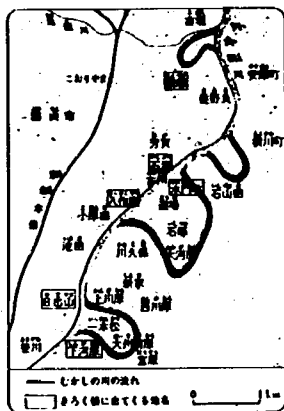
と 小林くんがしつもんしました。先生

が、二百年ほどまえの川の工事のきろくをプリントに見せてくださいました。

漢字が多くて、よく読むことができません。

せんが、
「川除」
「普請」
「水門」とい

う文字が多く見られます。また、みんな



大水がおこつたと二乃　四月でかゝれたと二乃は　大水がおこつたと二乃です。前ページの年表を見てください。

の知っている地名も、たびたびでてきました。

「川除」や「普請」の意味は先生に教えていただいたのでこのあたりは、何度でも大水があったことがわかりました。

また、普請した場所を、地図で見ると、大水は、川のまがつているところで、おこりやすいことがわかりました。

「だれが普請したのですか。」

と、森さんがしつもんしたので、

つぎは、そのことについて調べることになりました。

[illegible]

ていぼうをなおす工事

●むかしは、だれが工事をしたか。

「これは、そのころの川の工事の資料をもとにしてかいたものです。」

「といって、先生が—まいの絵を見せてくださいました。」

「右がわのちようめんを持つている人は名主です。名主というのは村のしどう者で、学問もありました。このあたり



の名主には、ていぼうの工事にくわしい人が多くいました。

「名主のさしずにしたがつて、農民がはたらいたのかな。」

「農民は、お金をもらってはたらいたのかな。」

「武士もいるから、武士が費用を出したと思う。」

絵を見ながら、いろいろ話しあいをしました。話しあいが終わってから、先生がつぎのようにまとめてくださいました。

「いまから二百五十年ぐらいまえまでは、大水のあとの工事は、藩の仕事でした。しかし、たびたびの大水で、費用が多くなるので、農民をただではたらかせるようなこともありました。農民は、自分たちの田畑を守るために、大水のたびに、苦勞しつづけていたのです。」

工事に使った道具

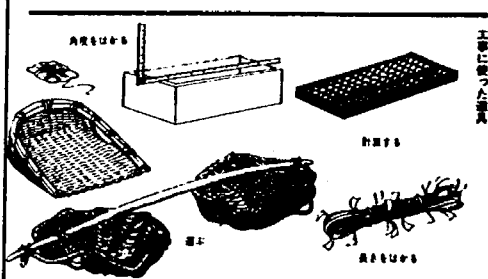
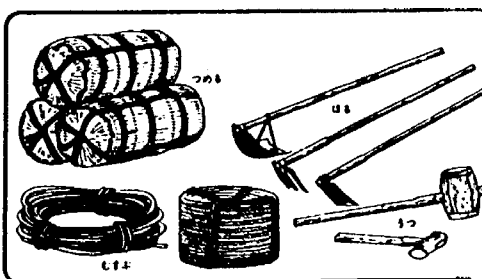
●どんな道具を使っていたか。

「まえの時間についていぼうの工事の勉強をしたので、どんな道具を使っていたのか、図書館に行つて調べてきました。」

山口さんがそういつて、絵を見せながら、せつめいをしてくれました。

「いまでも、使われているものがあるようね。」

人間の生活、どのようなものか、たのしみよう。



「みんな、人間の手でやったのだね。こんな道具で工事をしたのだから、たいへんだっだろうな。」

「いまは、かなり進歩しているね。」

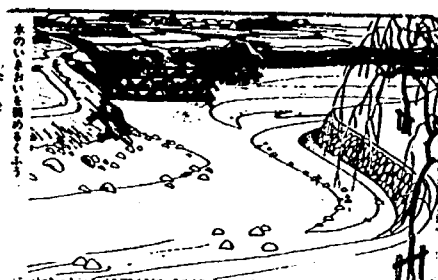
「いろいろな意見がでました。じつと考えていた林くんが、

「かんたんな道具だけれど、工事のしかたには、いろいろくふうをしたのだと思うよ。」

「いいました。それについて林くんが発表することになりました。」



なくふうをしていたんだね。」
「工事用の機械も、セメントもなかつたので、こんな方法を考えたんだね。」
などの意見がでました。森さんが、「大水をおこさないくふうは、しなかつたのですか。」
というきもんをだすと、先生が、「まがりくねった川の川すじをかえたのが、そのくふうだよ。」とおっしゃいました。



工事のしかた

●工事には、どんなふうがあったか。
「ていばう工事のしかたについて
発表します。ばくも、絵を資料
に使います。」
林くんがそういつて、そのころ
の工事のしかたについて、せつめ
いしました。
林くんのせつめいを聞いてから、
みんなて話しあいました。
「二百五十年もまえに、いろいろ

[illegible]

川すじをかえる

●川すじをかえる工事は、どのような
にすすめられたか。

「川すじをかえるとよいことは早くからわかっていました。二百五十年ほどまえにも一部の川すじをかえました。けれども、どこをどうかえるかをよく調べて、工事をすすめるのは大事業です。川すじをいか所かえても、上流や下流に

大きなえいきょうをあたえることがあります。それに多くの費用もかかります。郡山市だけでは、できなかったのです。先生は、そうせつめいして、川すじをかえる工事の年表を出してくださいました。

年表で、一九一六年（大正五年）に、県が計画をたて、そのよ
うに、せんもん家が阿武隈川を調査したことがわかります。
また、それまでに、郡山市いがいいがいの市町村からも工事をすすめ
てほしいというねがいが、県に出されています。そして、大工
事なので、国もこの工事に協力しています。

この川すじをかえる工事は、戦争で一時中止されましたが、一九六一年（昭和三十六年）に、ついに完成したのです。

レクリエーション(1)

自然河川での遊び



① 那珂川（茨城県）砂州上で遊ぶ人々。たくさんの人が川で遊ぶ。砂州は多くの人々を魅きつける魅力的な場所となっている。



② 那珂川 冷えた体を石で暖める子供。



③ 那珂川 川えびをとる少女。



④ 那珂川 川で泳ぐ親子。



⑤ 筑後川で菜の花をつむ子供たち。

出典「3つの鳥の歌が聞える」 福岡 佐賀 大分

整備された河川での遊び



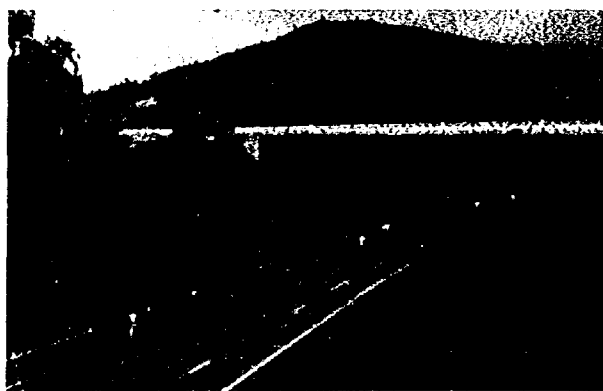
⑥ 馬見ヶ崎川（山形）高水敷上のせせらぎで遊ぶ子供達。高水敷では芋煮会が行なわれている。

出典 「観光山形」山形市産業部観光物産課



⑦ 元小山川（本庄市）

整備された高水敷からあひると遊ぶ親子づれ。



⑨ 豊平川（札幌）サイクリング道路

出典 「さっぽろ」 札幌市

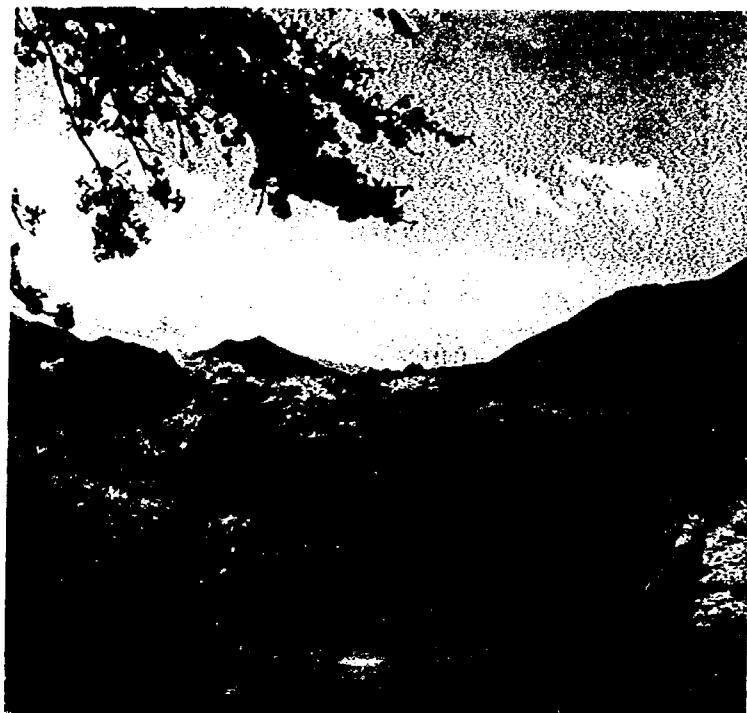


⑧ 多摩川（川崎市）

高水敷上のせせらぎで遊ぶ子供たち



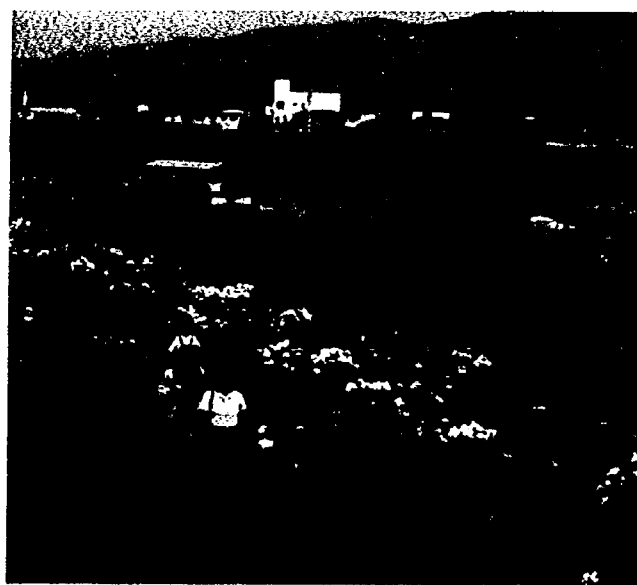
⑨ 川湯（鬼怒川，川治）
出典 「鬼怒川・川治」



⑫ 川面の桜（相模川，山梨県都留郡）
出典 「都留市」山梨県都留市役所商工課



⑩ 川湯
出典 「鳥取県トリップガイド」



⑬ 上川水郷あやめ園（長野県）
出典 「信州諏訪」



⑪ 川湯風景を伝えてくれる「武蔵寺縁起絵図」

お わ り に

本報告書を書き進むうちに、人々と河川の係わりが筆者が思った以上に広範囲で人々の生活と根深く結びついていることに驚きを覚えた。農村に行けば、用水の近くや水源地に必らずといっていい程水神の小さな祠があり、また小高い山の上には雷神を中心とする雨乞いの神社がまつられている。わが国が水田を中心とした農業国であったことから考えて、農村地帯では水との係わりが極めて重要であったことがわかる。一方、日本の都市の大部分は、江戸時代の城下町をもとに発展したものである。江戸時代の城下町は、河川を防衛のための堀の水源や舟運の媒体としており、川との係わりは深かったことが推察できる。わが国において、水・川と人々の係わりが広範囲で深いことは、歴史的経緯から考えて当然のことであろう。

現在、川と人々の係わりが疎遠になってきたとよくいわれる。それは、本報告書で考察を進めてきたように、生活や舟運などの係わりが衰退してきたことが非常に目立っているためであろう。しかし、一方で社会構造の変化に伴ってレクリエーションや遊び、または、地域活動や住民活動の対象として、川は注目され、レクリエーションや遊びはしだいに盛んになる傾向にある。川と人々の係わりが疎遠になってきた、というよりは、現在活動の目的や種別が変化する過渡期にあると考えてよいのではないだろうか。

まえがきでも述べたように、本報告書の対象となる活動は広範囲であり、本報告書に洩れた事例は数多く断片的な報告書になっているのではないかという危惧を持っている。今後さらに、知見を深め内容の充実を図っていきたい。

本報告書の執筆には島谷があたり、松浦が加筆修正した。最後に多くの資料を提供していただいた関係地方自治体、建設省地方建設局工事事務所、都市河川研究室員の皆様に心より感謝します。

参 考 文 献

- (1) 石上七鞘, 日本の河川観特集「古事記」, 河川レビュー№ 49, 1984 秋
- (2) 菊地義裕, " 「万葉集」 "
- (3) 森谷尅久, 山田光二, 京の川, 角川選書 119, 1980
- (4) 川口謙二, 神々の系図 正・続, 東京美術選書 1976, 1980
- (5) 北見俊夫, 川の文化, 日本書籍, 1981
- (6) 島田市史上中巻
- (7) 岡田米夫, 神社, 日本史小百科 1, 近藤出版社, 1977
- (8) 世界大百科事典, 平凡社, 「水神」「雨乞い」「祇園信仰」「弁天信仰」「河童」について
- (9) 大日本百科事典, 小学館, 同上
- (10) 直江廣治, 水神信仰と川, 自然と文化, 日本ナショナルトラスト 1976 夏季号
- (11) 河上一雄, 祇園・天王信仰 "
- (12) 中村茂子, 川と祭り "
- (13) 藤井正雄, 川と仏教信仰 "
- (14) 大島建彦, 川と民間文芸 "
- (15) 京都市交通事業振興公社 監修岩佐義郎, 京のまちと川 1984
- (16) 京都府, 鴨川の今昔 1979
- (17) みずのわ№ 52 1983. 10

その他, 本報告書中の事例に関して, 関係地方自治体に観光パンフレットを含め, 多くの資料を提供していただきました。

都市域に望まれる河川係に関する
研究(その2)

ISSN 0386-5878
土研資料 第2223号
昭和60年3月(1985年)

ーかわと人々とのかかわり方ー

松浦茂樹
島谷幸宏

要 旨

河川に係わる人々の活動事例を幅広く収集し、それらの活動を分類分析し、それぞれの活動が現在どのような状況におかれ、今後どのような活動に着目する必要があるかを考察した。また活動事例を信仰、生活、生業、社会、創作、教育、レクリエーションについて紹介した。

キーワード: 河川環境, 親水,  親水活動

郵便はがき

40円切
手
を
は
い
下
さ

3 0 5 - □ □

茨城県筑波郡豊里町大字旭一番地
建設省土木研究所
都市河川研究室 行

No. _____

No. _____

配布先氏名

配布先住所



土木研究所資料第 2223 号 部

上記のとおり受領しました。

所 属 (住所)

氏 名

印

○